



残光


—空白の半年間—

PRESENTED BY ... KAOSHIBA

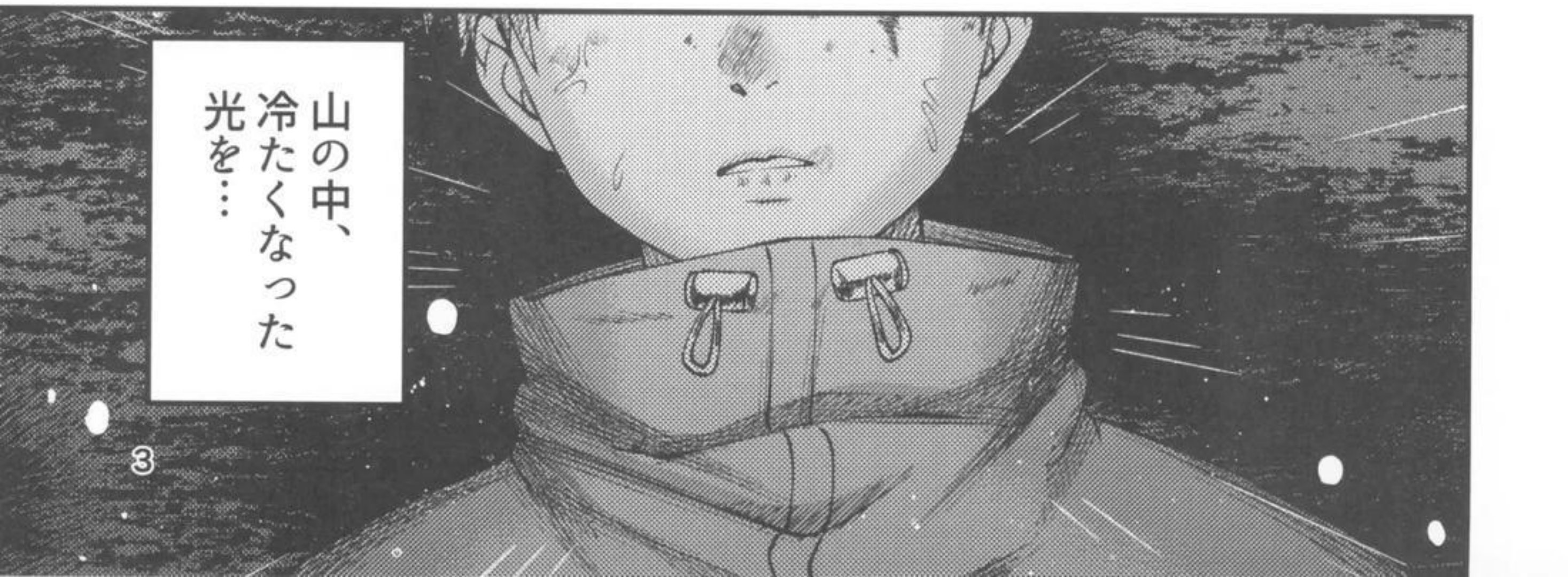
R
18.

ADULT ONLY






よしきはあの日
見てしまった



山の中、
冷たくなった
光を…



もう動かない光を

二度と笑わない
光を——……



死体って案外
キレイなんや…

このこと早く
人に伝えんと…

あれ…？

あれ…？

よしきっ！！




頭が真っ白になり、
正直どうやって帰ったかも
覚えていない。



今…消防団で
頑張って探してる

大丈夫だから…!




自分のみたことを
口に出すと、


光が死んだことを
認めることに
なりそうで、

認めたくなくて、

誰にも、家族にも
言い出せなかった。




あれは夢か幻か
何かで…



明日になったら
いつも通り、

悪戯な顔を
浮かべた光が
いてくれる。



そう思い、
俺は意識を手放した

次の日も、
その次の日も、
光は帰っては
来なかったー！…

認めたくない、
認めたくない、
認めたくない。

あれは…
本物の光だった…？

そう思った途端、

強烈な吐き気が
込み上げて
トイレに
駆け込んだ。

兄ちゃん、
大丈夫…？



光くん、帰ってきて
いま入院してるってよ

光が行方不明になって、
一週間が経った頃…



どこの病院!?

希望ヶ山総合病院
だけど…

…って、
よしき!?



もうすぐ
病院や…!

やっぱり夢
やったんやな!

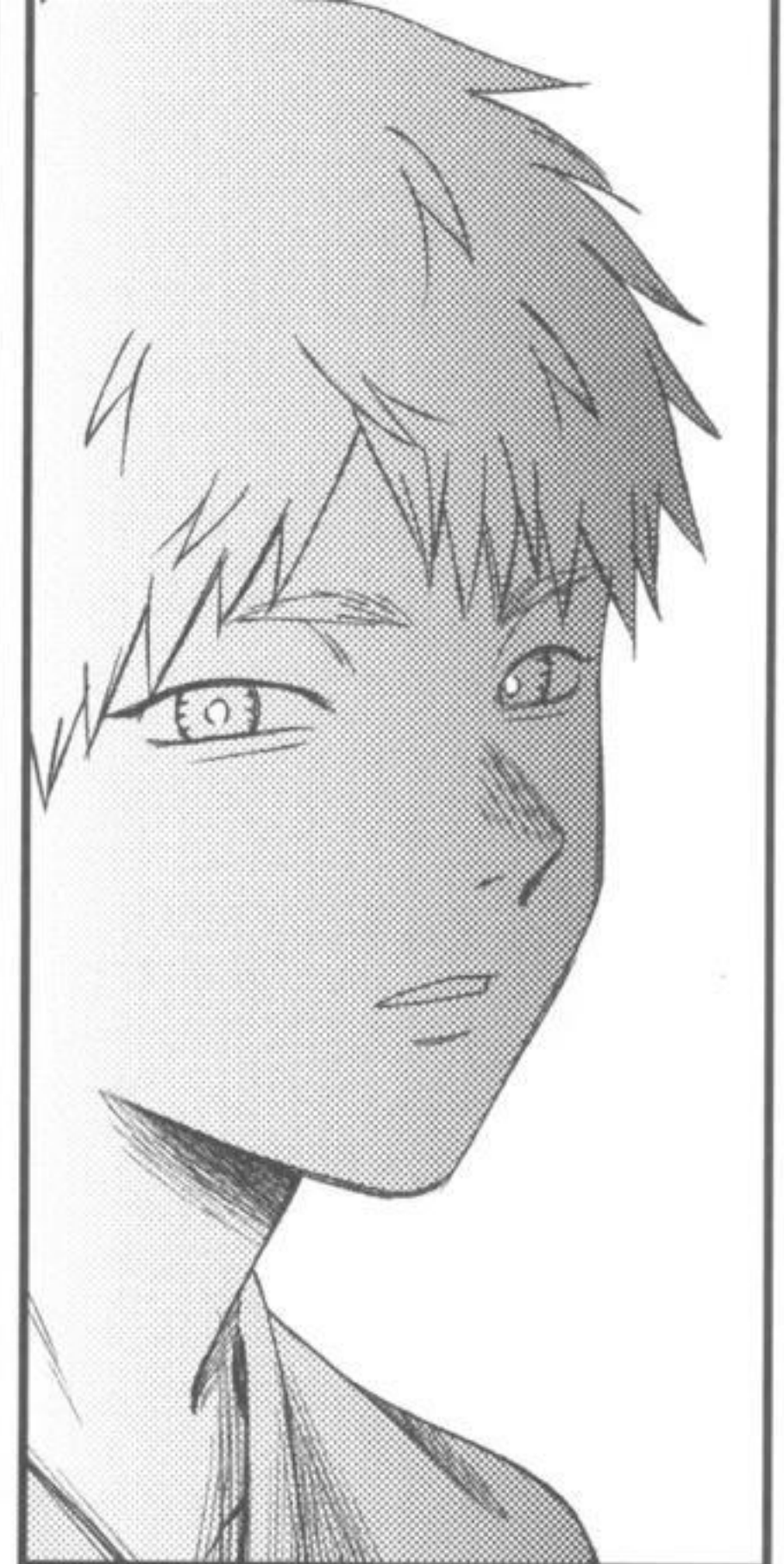
…は、はは!

やっぱり…!





おーよしき！
お見舞いに
来てくれたん？



光…お前…

今まで一週間も
どこで何してたん？



あーそれなー
記憶が曖昧でなあ。

山に行こうとしてたんは
なんとなく覚えとるん
やけど…

そうか…



一通り検査して、
問題なければ
即退院出来る
らしいわ！



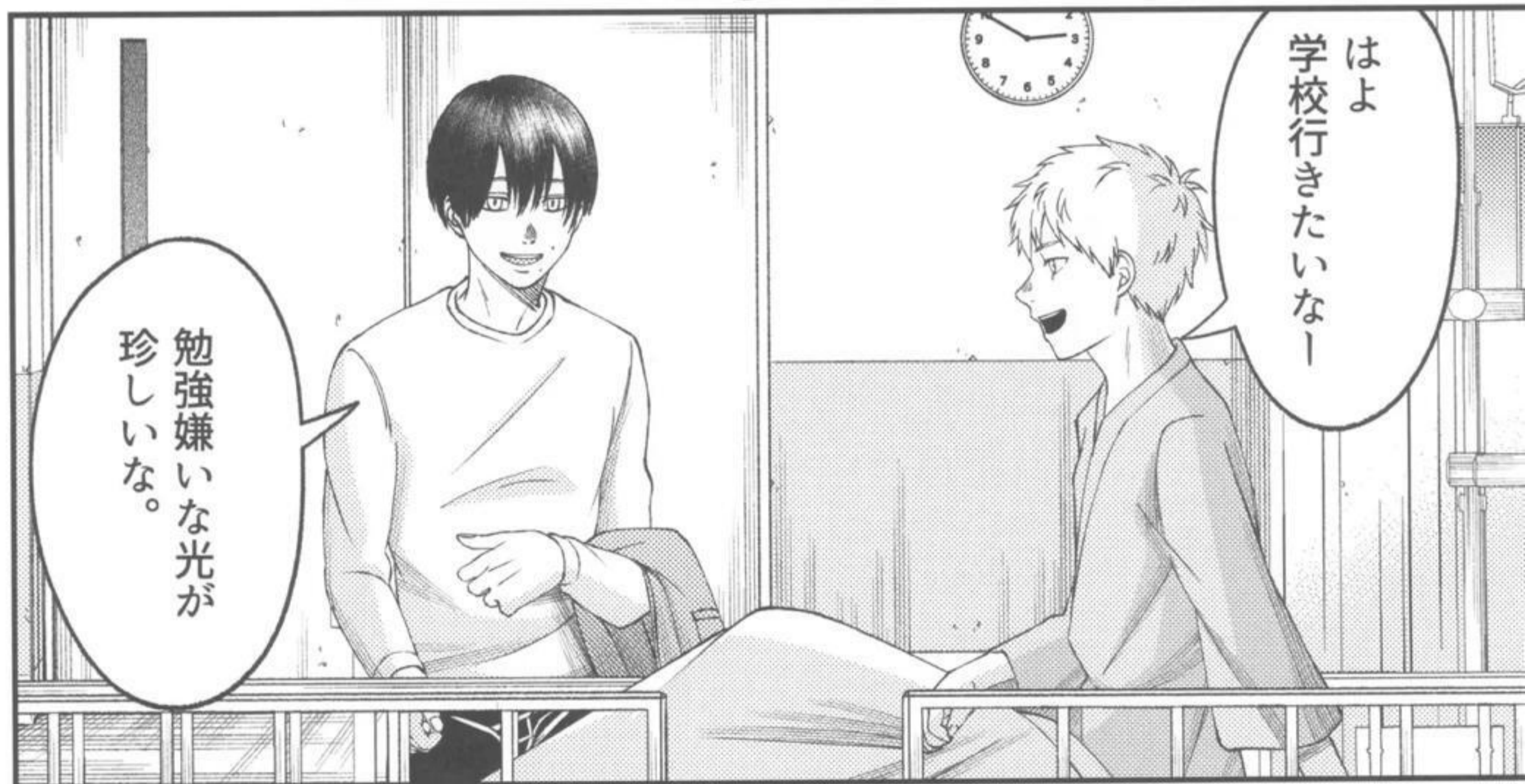
ド
キッ



それで、

ぬきッ

いつ頃
退院出来るん？



はよ
学校行きたいな！

勉強嫌いな光が
珍しいな。



キラッ



記憶ないんやろ、
アホか。



山に籠って
修行を積んだことで
勉強の有り難みを
知った…的な？





びつくりした——!!
いきなりよしきと
会ってまつたやん!!

ドキドキ

バレるかと思った!!
おれちゃんと「光」を
出来とつたかな…?



なんなんやるこの感情は…
よしきを見るとドキドキする…

これも、
光の影響…?

かあ ああ



よしき…
冬やのにあんな汗だくで…

急いで来てくれたんやな。
優しいなよしきは。



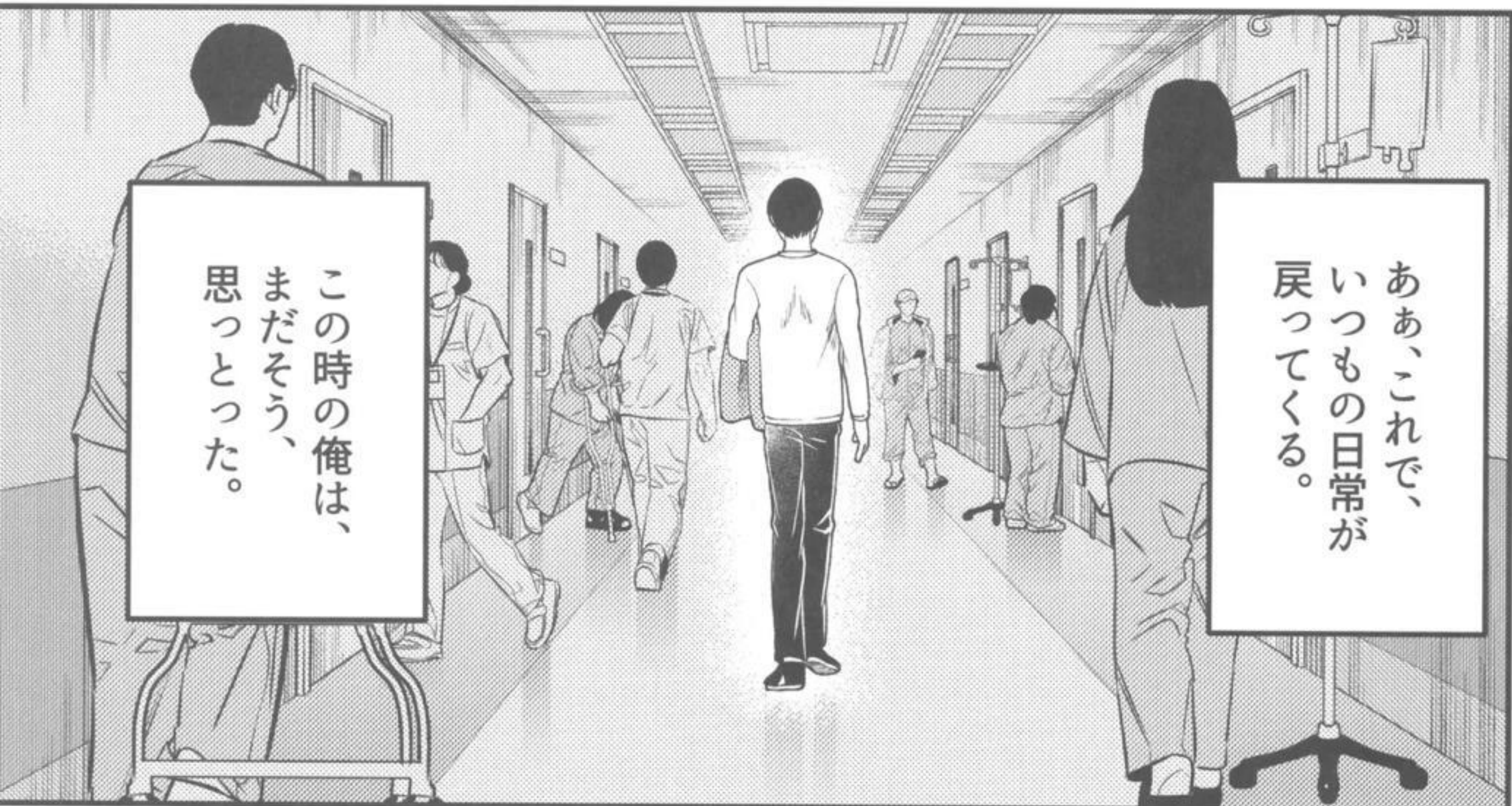
これからは毎日学校で
よしきに会える…!!

はしやぎ過ぎて
「光」やないつて
バレンのように
しやんと。

ドクドク



ああ…光や…
本当に帰ってきた



この時の俺は、
まだそう、
思っと思った。

ああ、これで、
いつもの日常が
戻ってくる。



光が戻って来てから
日常が再開した。



光はあれから
まもなく退院し、
学校にも行くように
なった。

光！
心配したで！

ははは、
心配かけて
すまんかったわー

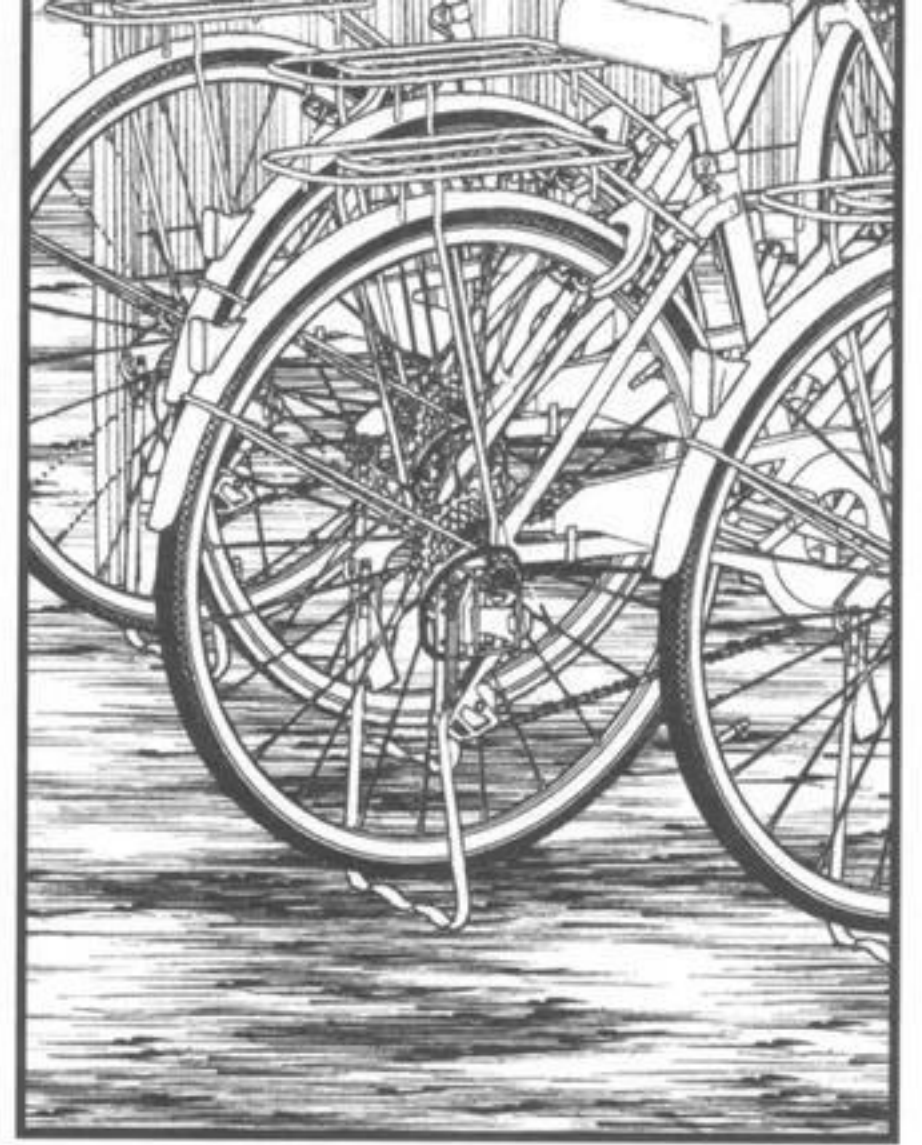
ほんまに
心配したんよー



そこに光が
いるだけで

わ
は
は
は

日常が彩られて
いくような
そんな気がした。







えーとおれは…
主人公の相棒の
シバ：何だっけな。

出てこい！
俺の友達！

シバワン！

もしかして、
シバワンの事か？

そうそれ！



普段はやる気ない
感じやけど、

本当は優しくて、
やらんとアカン時は
ビシッと決める
ところがええよなあ！

あれ？
昔は主人公が好きって
言うてなかった？

友達を大事に
するところが
ええ言うて

シバワンは
俺の大事な友達！



……



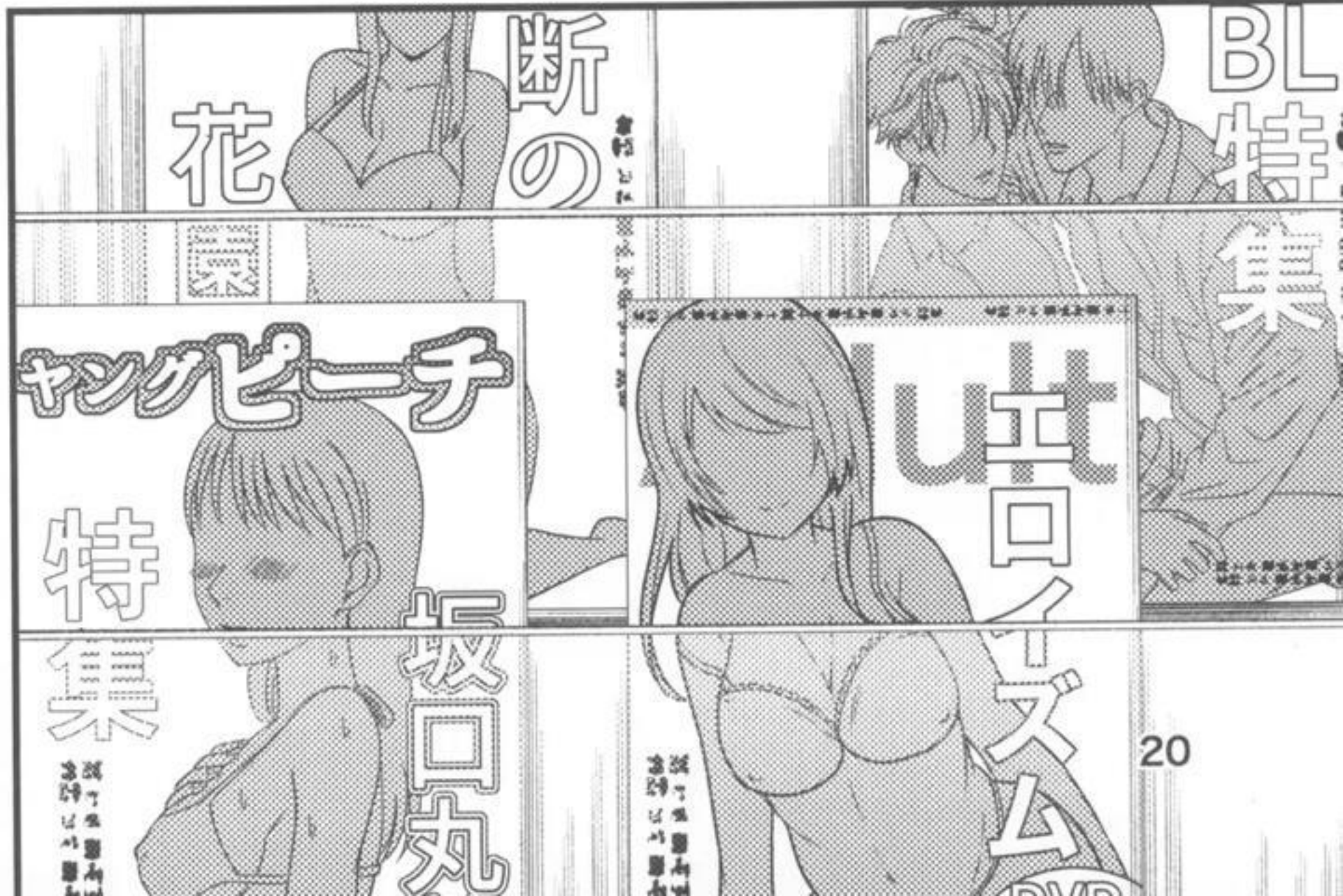
はいはい。

シバワンの良さが
分かるようになった
ってことは、

おれも大人に
なったってこと
やな！



えっ？あー…
そうやったっけ？





そうよな、
光も健全な男や。

ああいうもんに
興味を持っても
全然おかしくない。

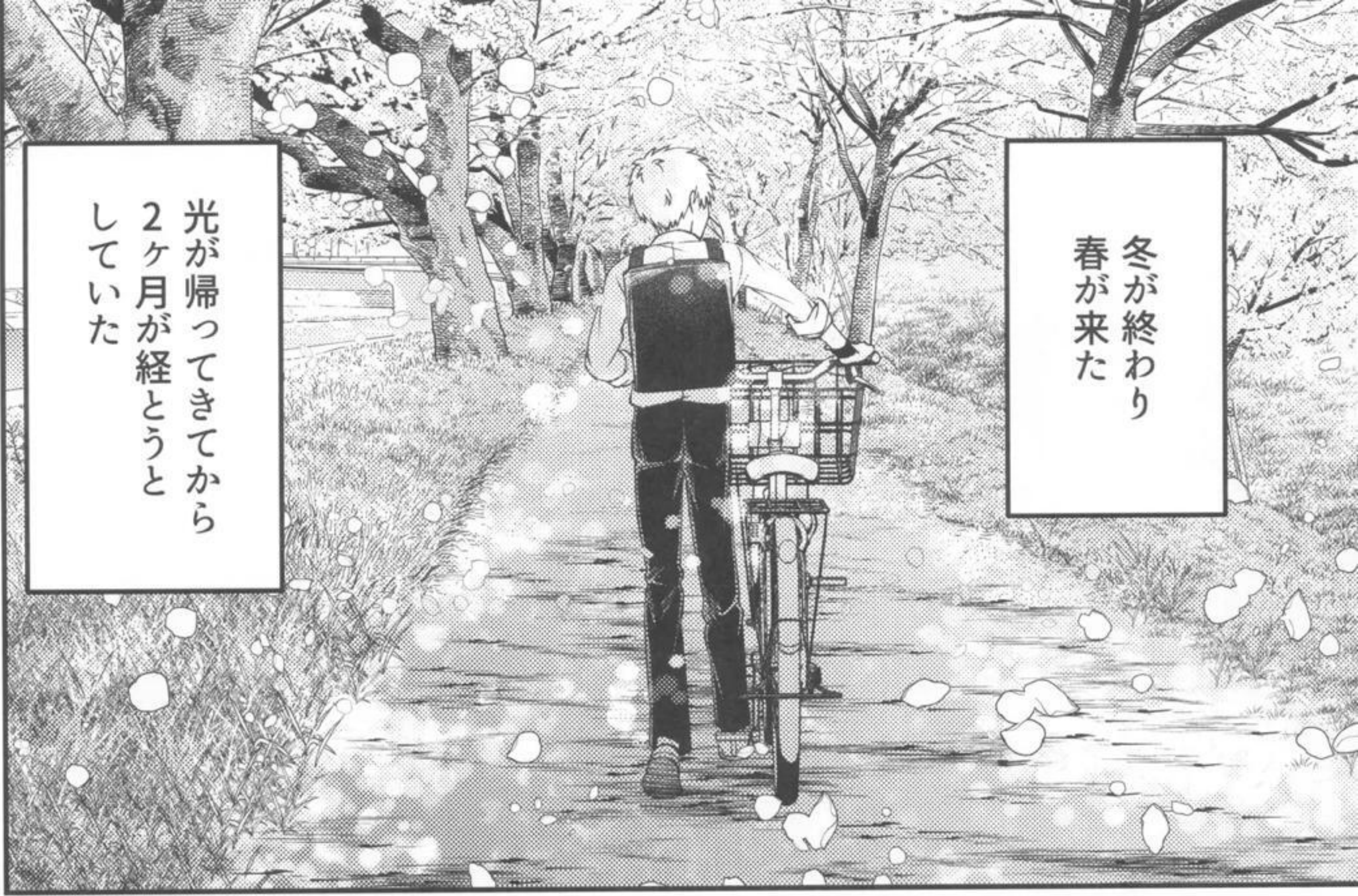


ちら...



もうええやろ、
そろそろ帰んで。

え...?
あ、うん...



冬が終わり
春が来た

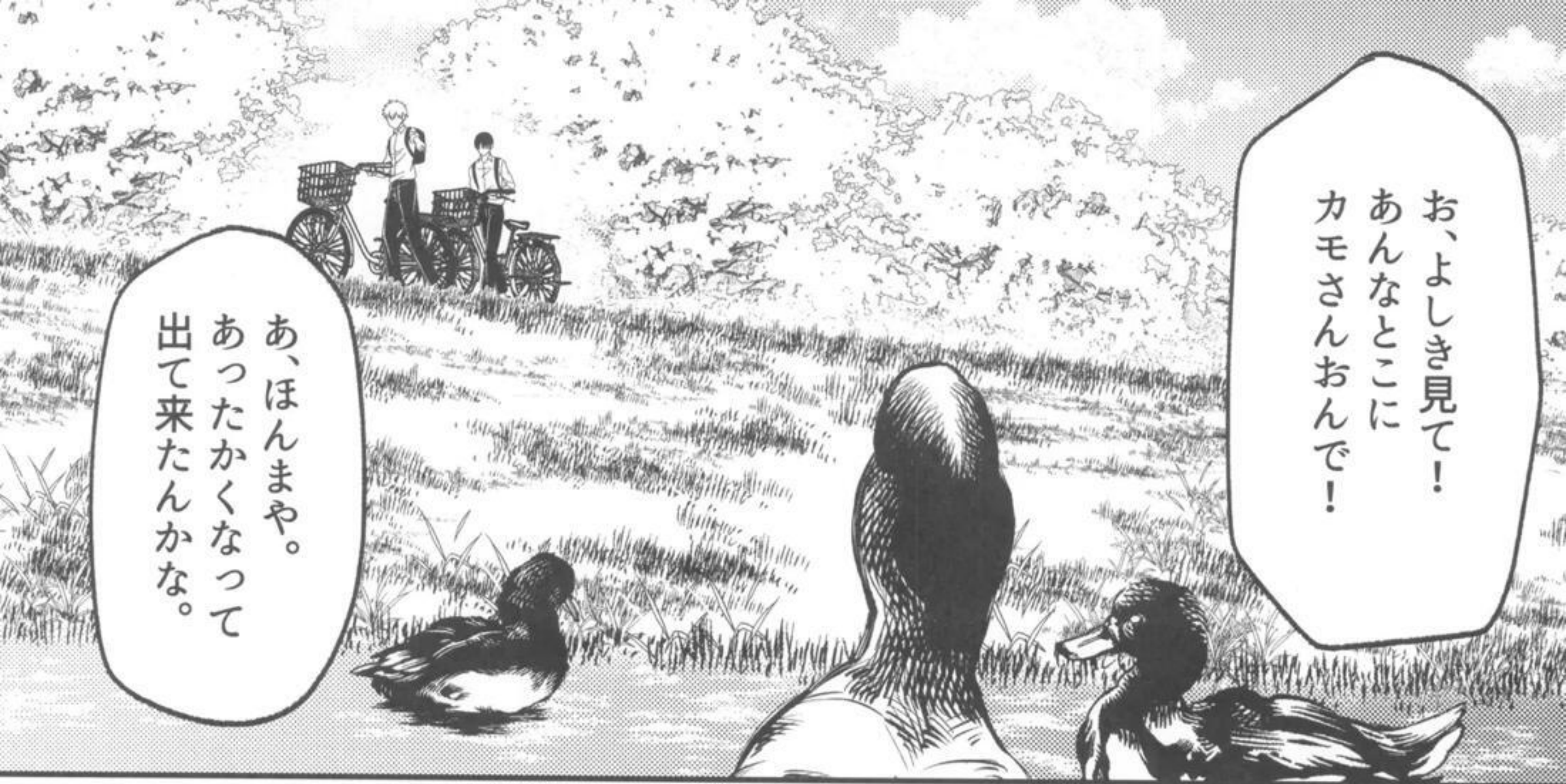
光が帰ってきてから
2ヶ月が経とうと
していた



なあ
よしき
今年の桜、
めっちゃ
キレイやな！



そうやな。



お、よしき見て！
あんなところに
カモさんおんで！

あ、ほんまや。
あつたかくなつて
出て来たんかな。



…って、
言った側から…

よしきっ！！



近くで見よに！

そやな、近くまで
行ってみるか。



うわっ！？



うおっ！？
足元けっこう滑るで、
よしき気をつけてな。

……いつて

…あつぶな…
よしき怪我不い？

ごごめん！光！
俺を庇って…

お前のおかげで俺は
何とも…
光は…!?

おれも
何ともなし！

でも…



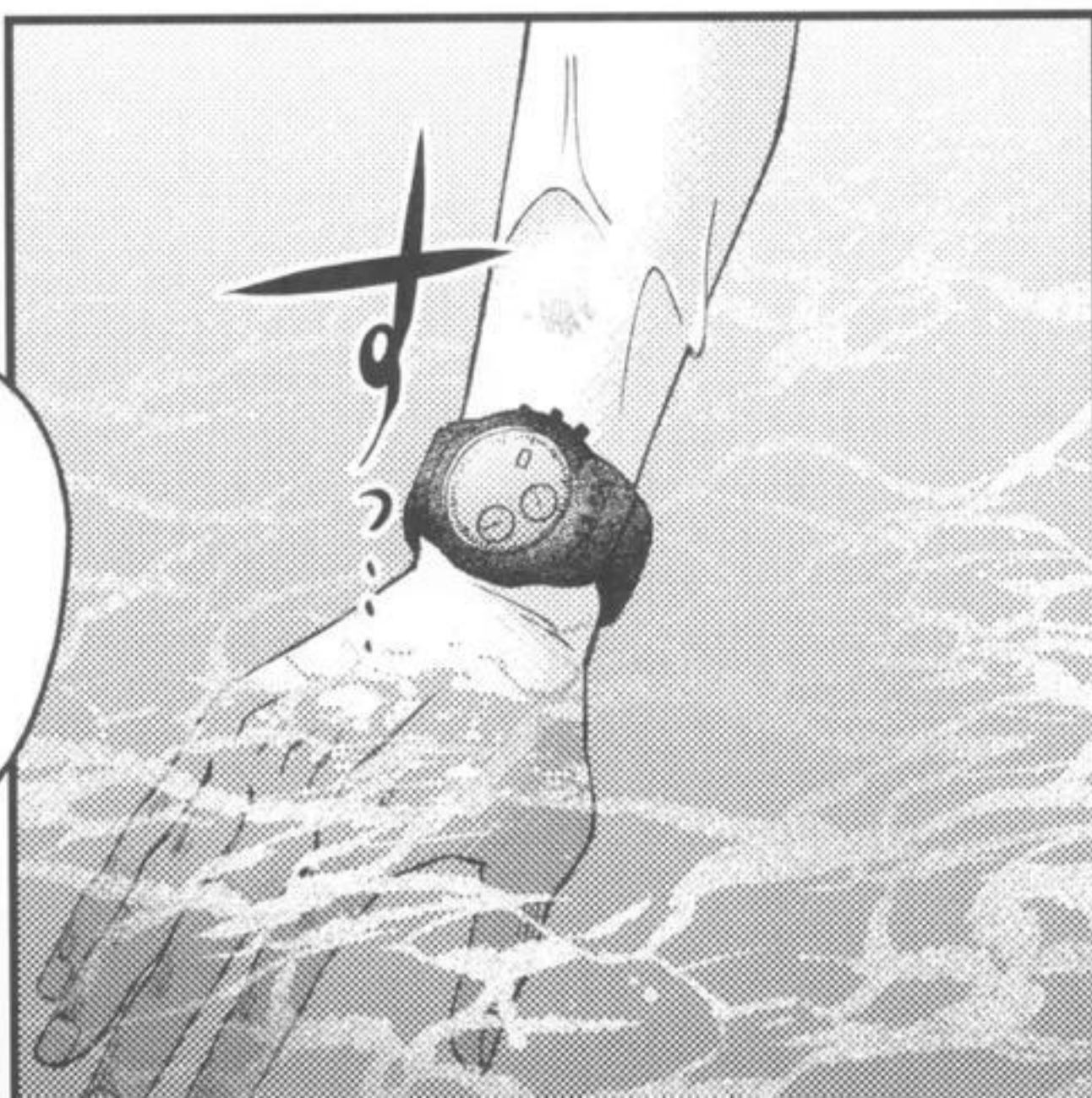
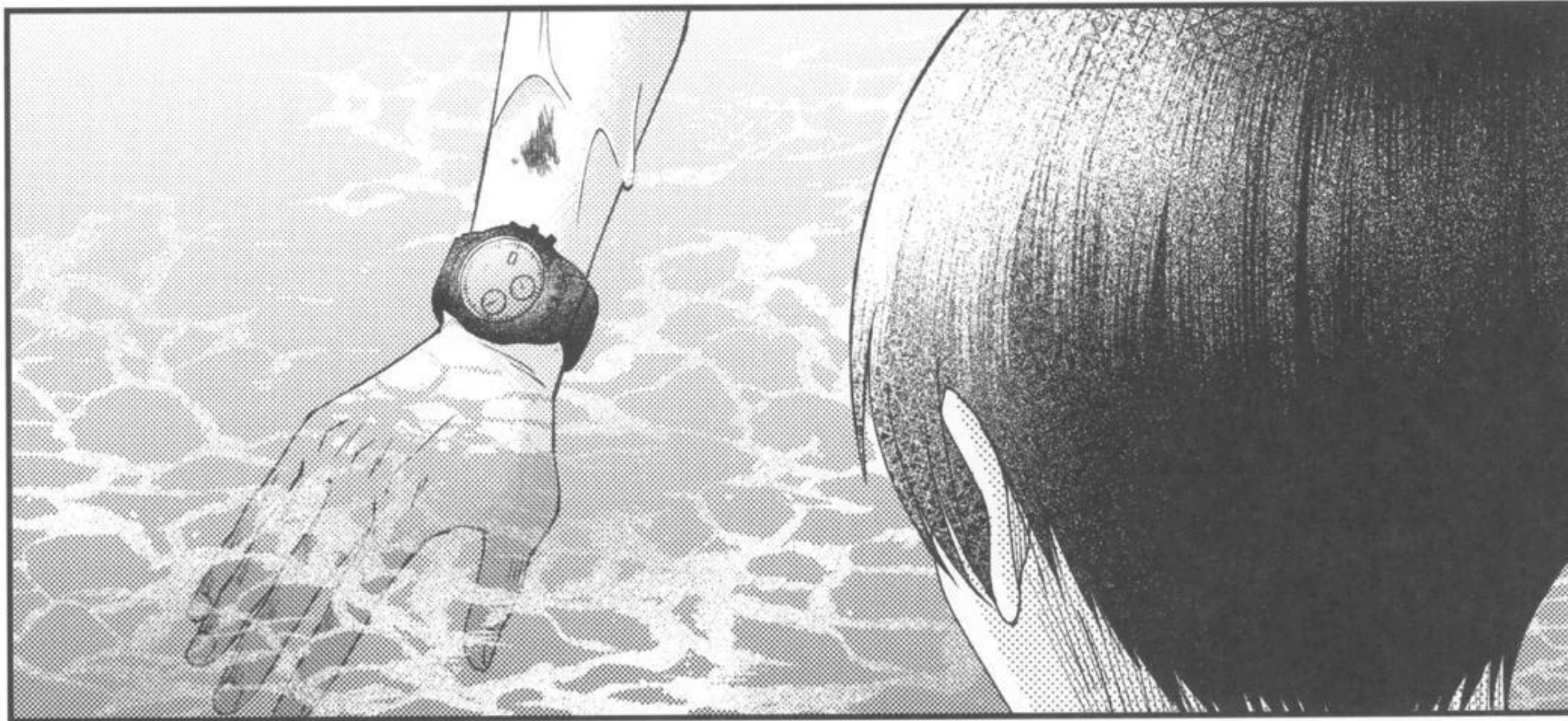
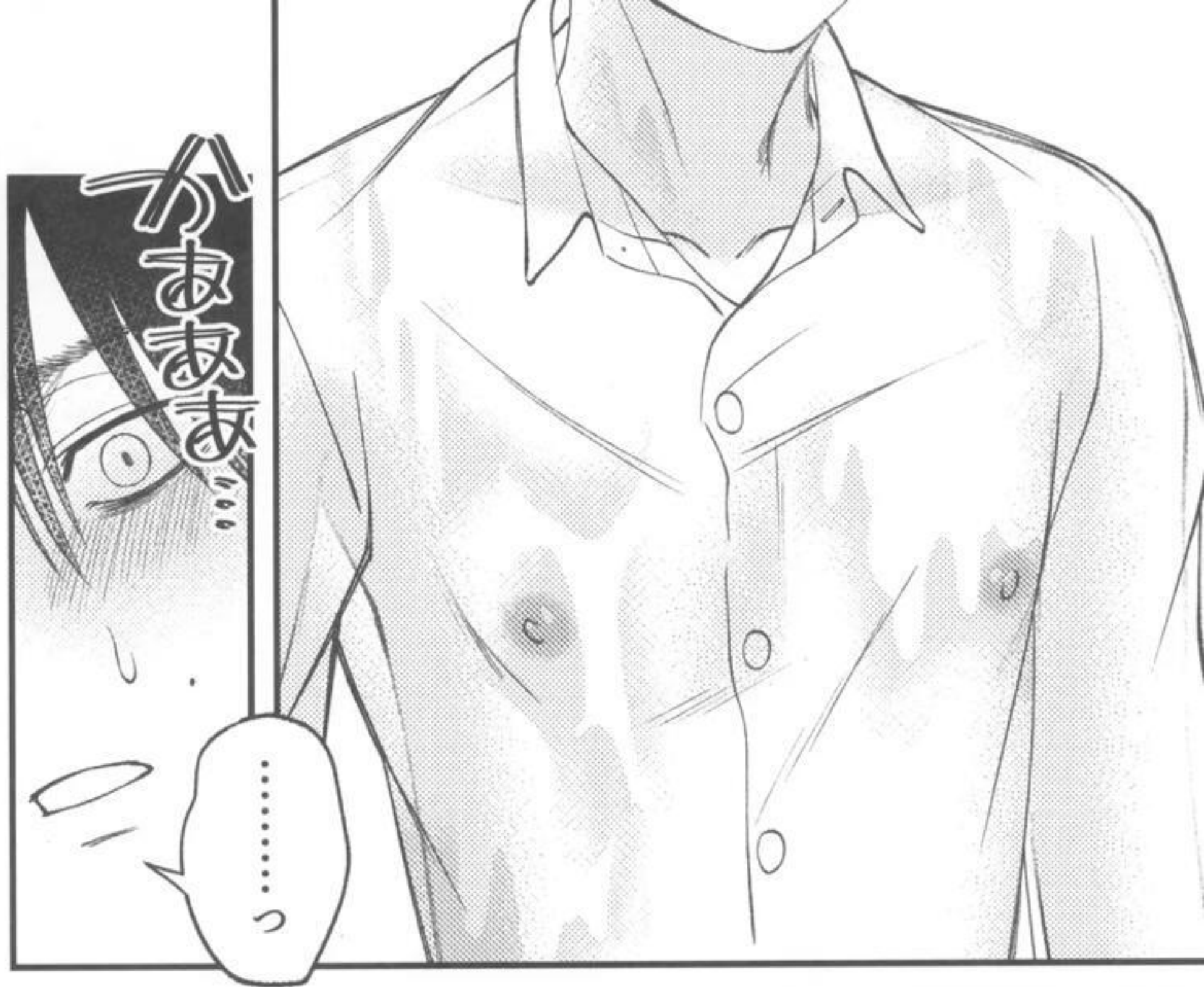
そろそろ
上から退いて
ほしいかも…

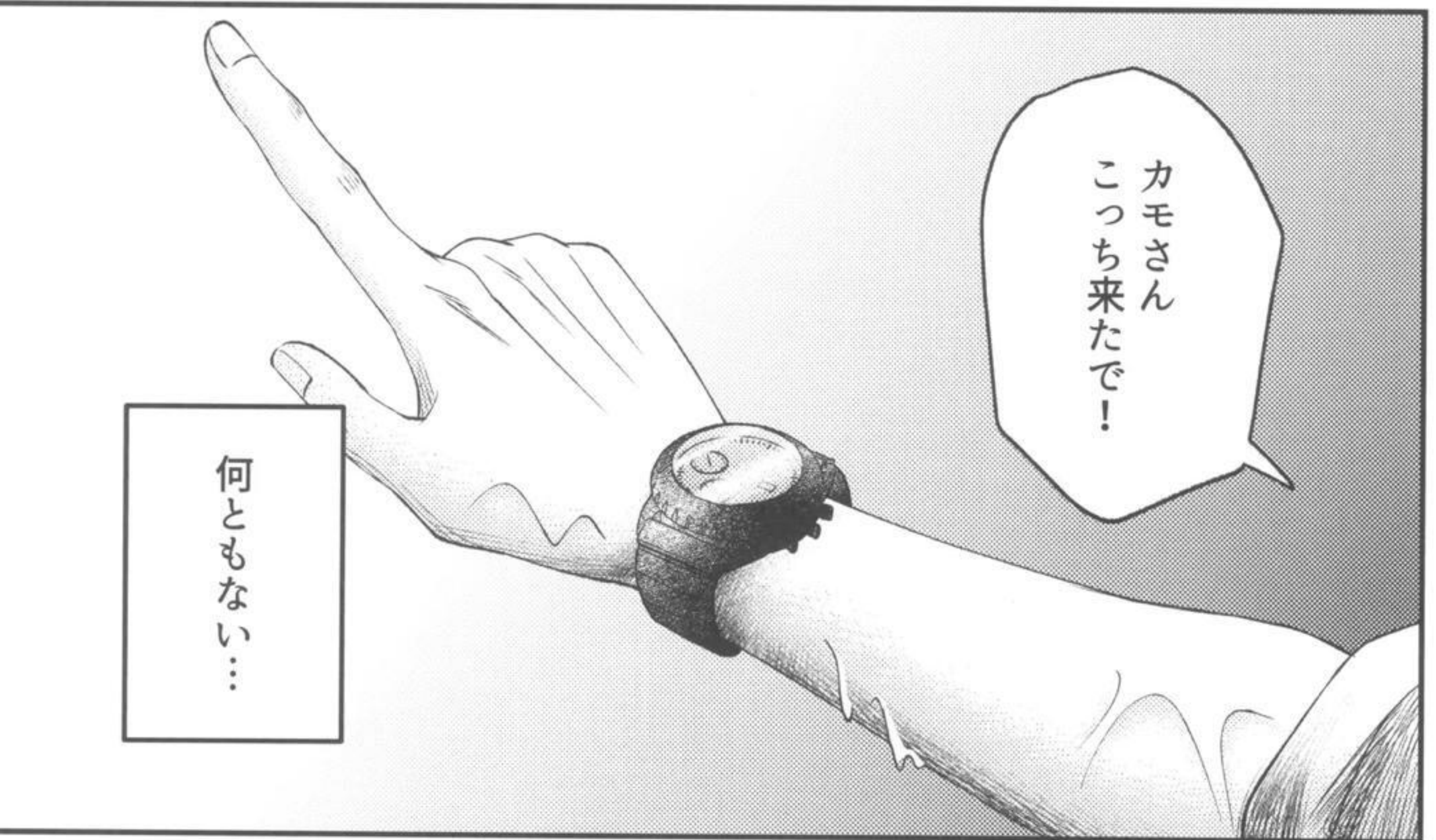


っ!?

ごめん…!!

かあああ…








よしきと一緒にいる
時間が一番好きや。

なんでアイツのことが
大事なんかよく分からん。

けど、よしきとおると
空っぽだった自分の中に
何かが流れ込んでくる
ような気がする。



「光」の記憶は全部ある。やから、完璧に演じられるはずや。

けど、時々分からなくなる。

「光」ならどう反応するべきなのか。


記憶はあっても、その時光が何を感じていたのかが分からん。



本屋で漫画の話をした時、

子供の頃に好きだったキャラを答えた。

でも、よしきの表情がまた曇った。



何か、間違えている。

でも、何が正解なのか分からん。

最近よしきの様子が
変わった気がする。



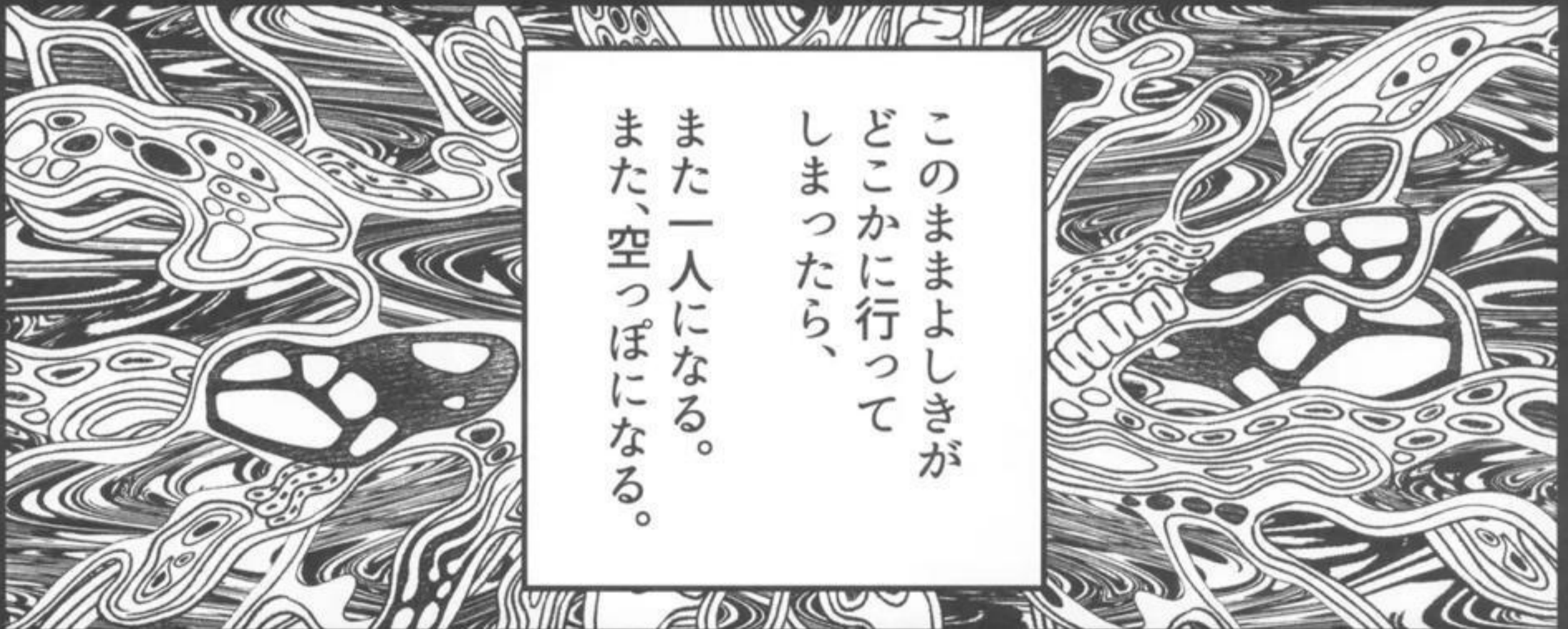
目を合わせなくなつて、
沈黙が多くなつた。

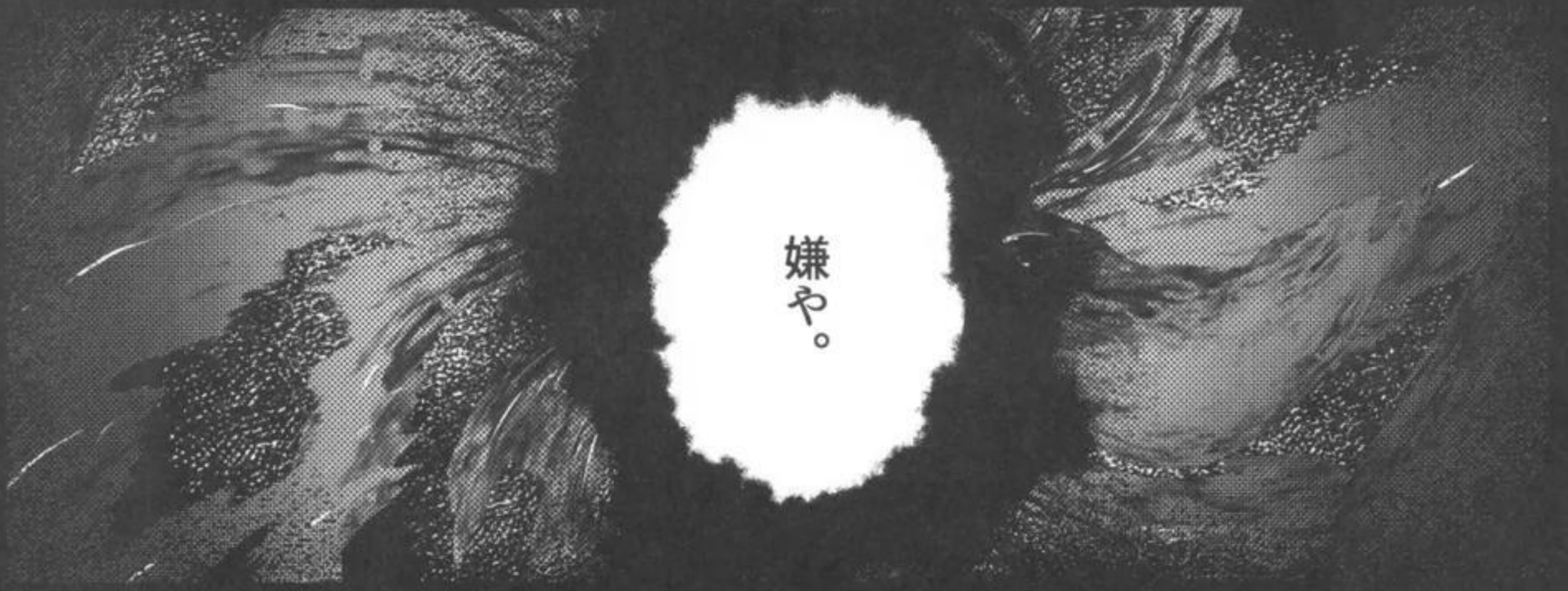
このままやと、
よしきが離れていく
気がする。



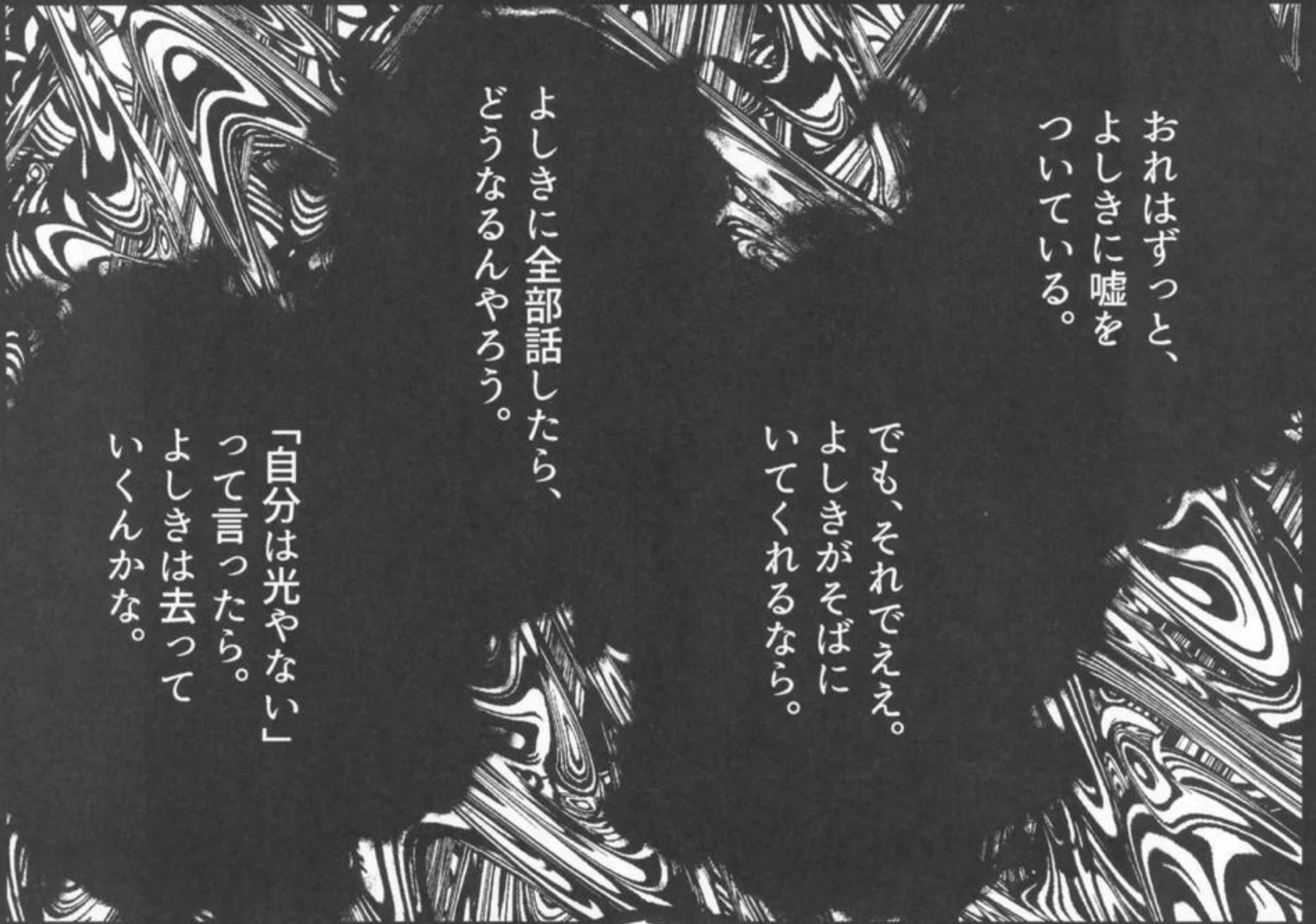
怖い。

このままよしきが
どこかに行つて
しまつたら、
また一人になる。
また、空っぽになる。





嫌や。



おれはずっと、
よしきに嘘を
ついている。

でも、それでええ。
よしきがそばに
いてくれるなら。

よしきに全部話したら、
どうなるんやろう。

「自分は光やない」
って言ったら。
よしきは去って
いくんかな。



よしき…
お願いやから
ずっと、
そばにいて…



あれは一体、
何やったん
やろなあ…

…見間違いか？
いや、あれは…
確かに…



言いようの
ない違和感を
感じる。



何か…

光が
山から
帰って
きてから、

声や外見、
記憶も
光そのもの
やけど…

記憶そのままに
中身が入れ替わって
ナニカが光のフリを
している…？

なんて
まさかな。

はぁ〜

そんな
漫画みたいな事
ありえやん。

俺どんだけ
想像力豊かなん。

ん…っ

光…

この想像力が
恨めしい…

カチャ
カチャ

よしき！
おはよう！

……
……
はよ。

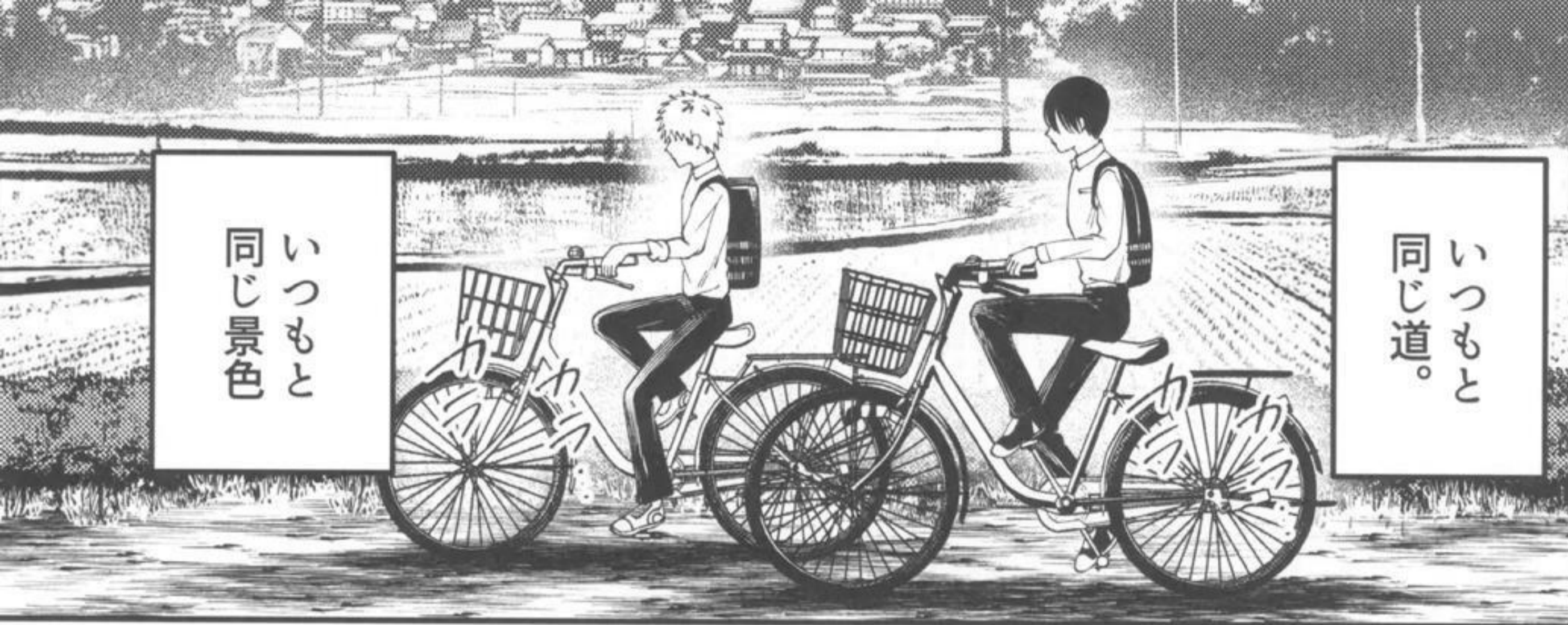
んー？ 今日朝から
ご機嫌ナナメ
なんかー？

別にそういう
わけじゃ
ないけど……

なー
どしたん？
はよ行こに。

光であんな
想像して
まった後や……

気まずい……



いつもと
同じ景色

いつもと
同じ道。

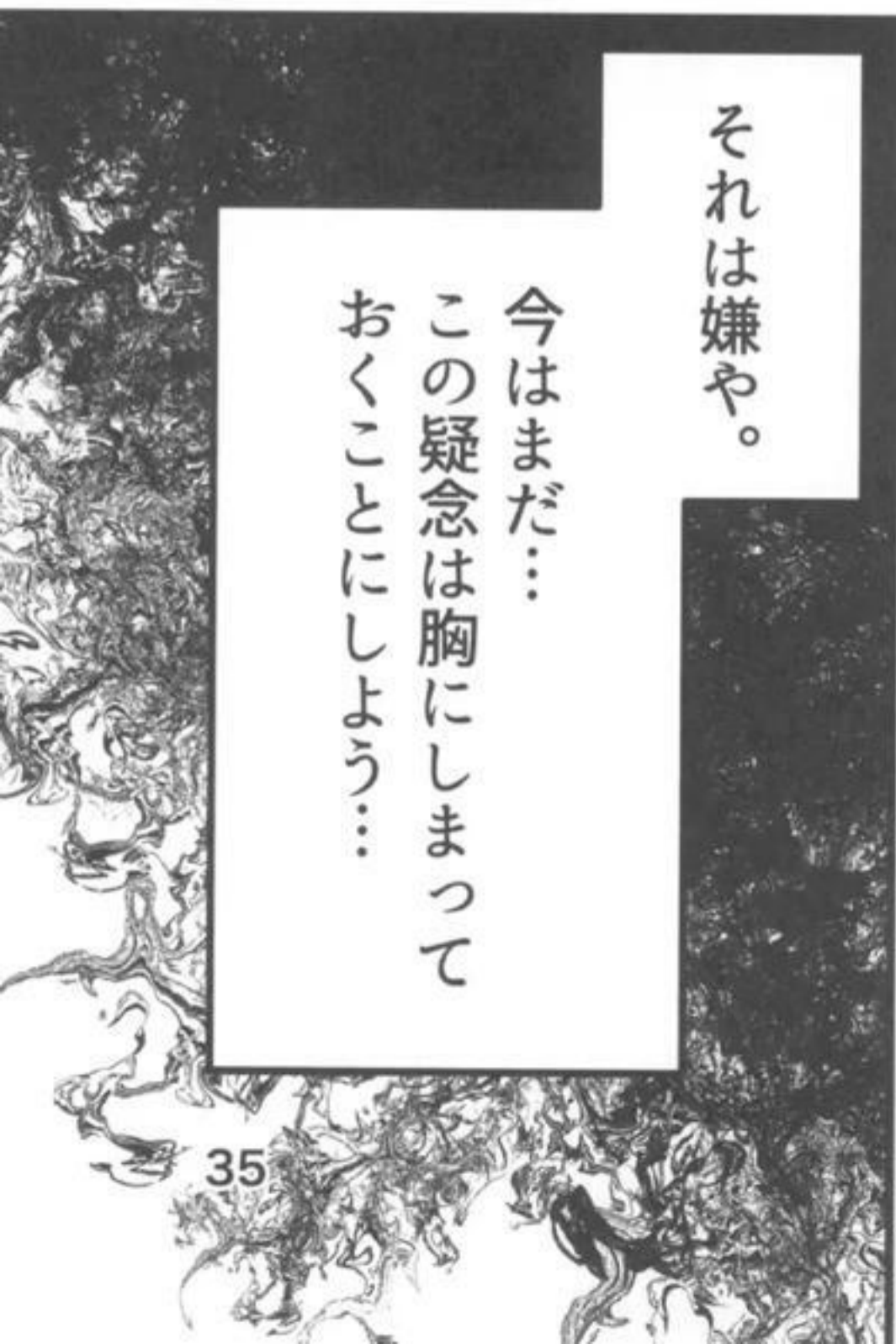


傷が治ったこと、
直接光に聞いて
みるか…？

でも…

いつもの
変わらない光。

変わらない
日常。



それは嫌や。

今はまだ…
この疑念は胸にしまって
おくことにしよう…



それを聞くことで
せつかく戻った
今の日常が、

光のおる
日常が、

壊れてしまう
予感がする。



それから、
春から初夏へと
季節は移り変わって
行った。

ミヤワミヤワミヤワ
ミヤワミヤワミヤワ
ミヤワミヤワミヤワ

ミヤワミヤワミヤワ
ミヤワミヤワミヤワ
ミヤワミヤワミヤワ

ミヤワミヤワミヤワ
ミヤワミヤワミヤワ
ミヤワミヤワミヤワ

ミヤワミヤワミヤワ
ミヤワミヤワミヤワ
ミヤワミヤワミヤワ

ミヤワミヤワミヤワ
ミヤワミヤワミヤワ
ミヤワミヤワミヤワ

ミヤワミヤワミヤワ
ミヤワミヤワミヤワ
ミヤワミヤワミヤワ



光と一緒に
学校に行き、

光と一緒に
帰る。

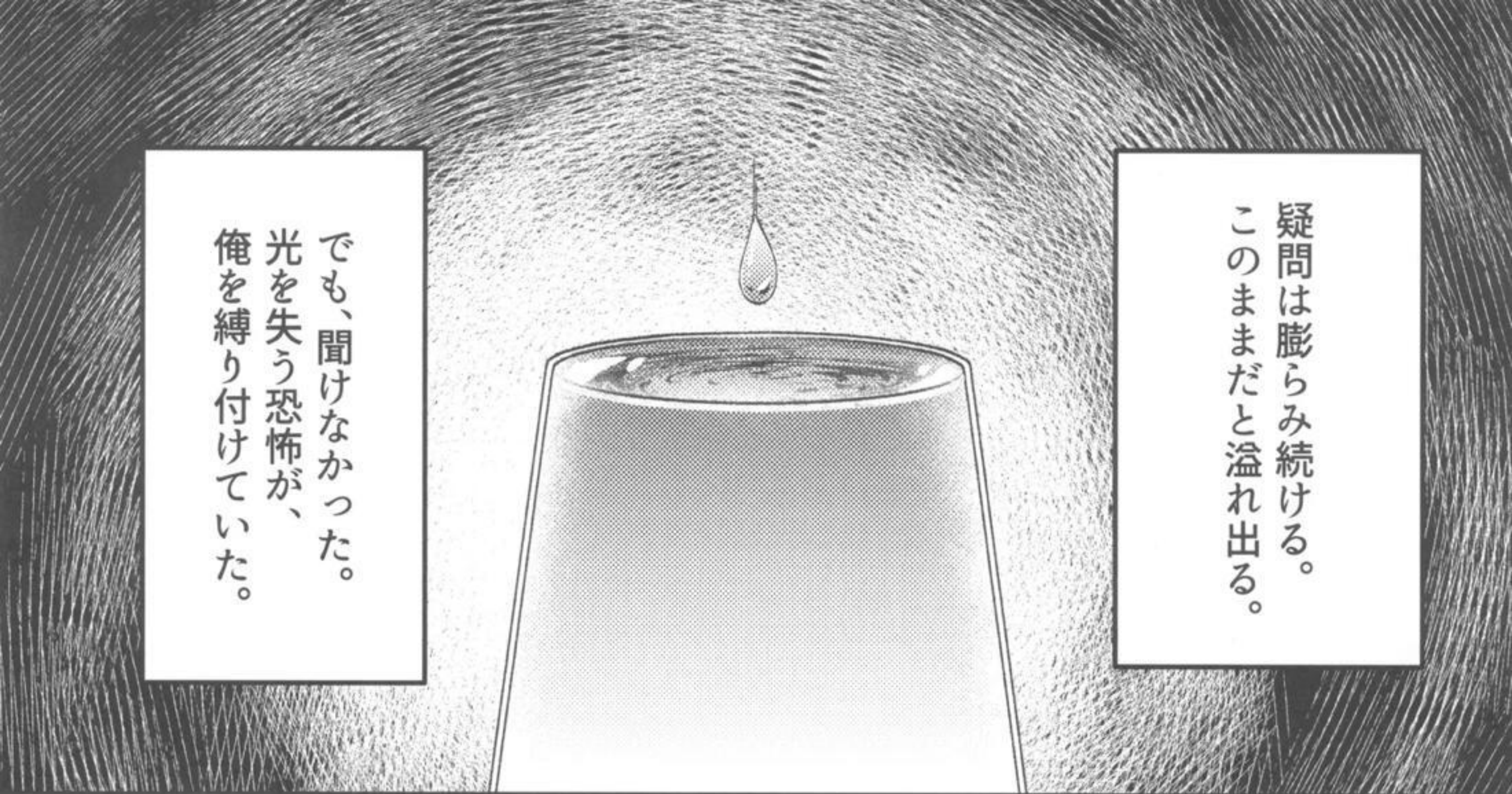
他愛のない
話をして
笑い合う。

いつも通りの
日々。




けど…

これは、本当に
光なんやろか。



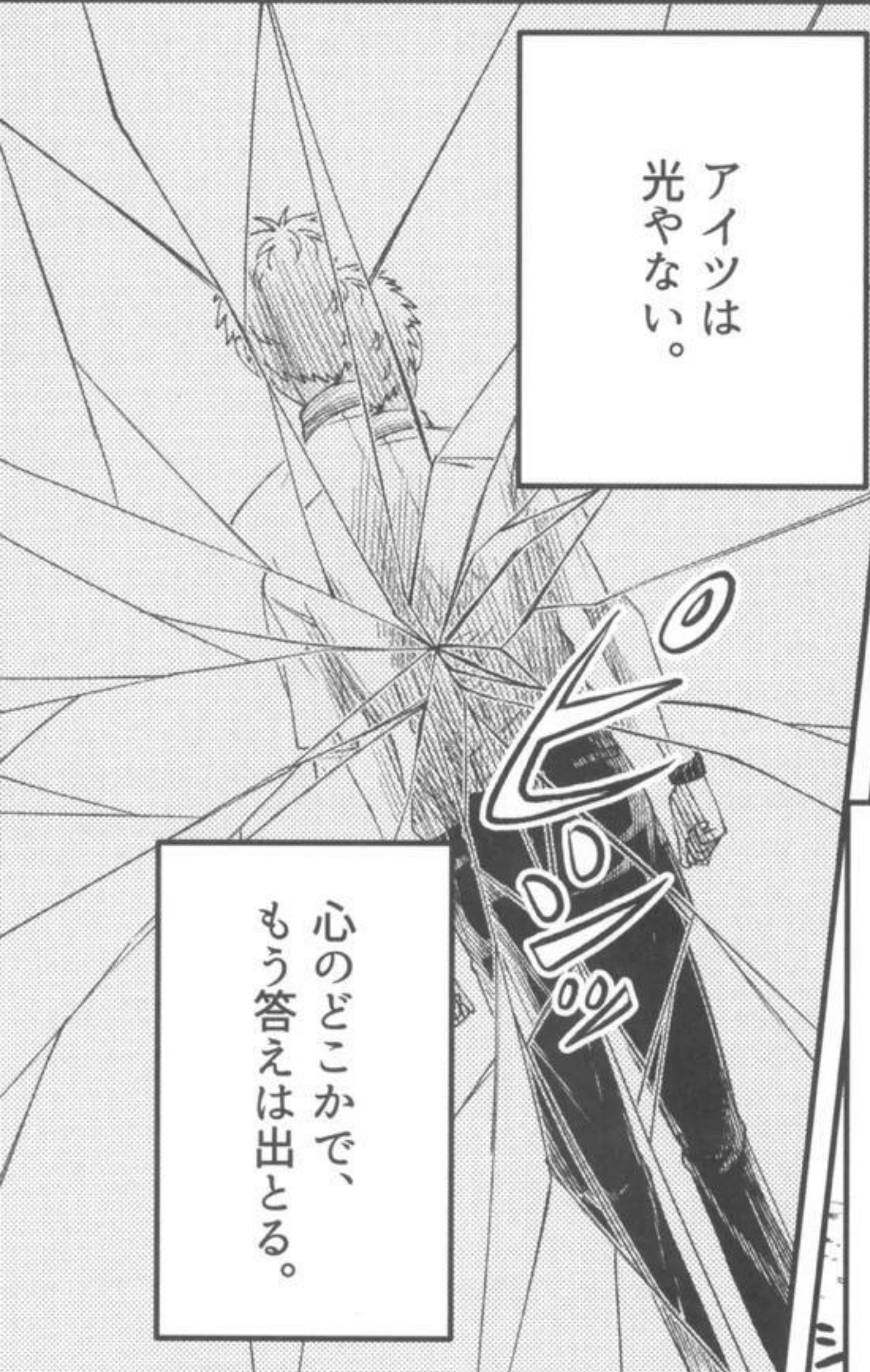
疑問は膨らみ続ける。
このままだと溢れ出る。

でも、聞けなかった。
光を失う恐怖が、
俺を縛り付けていた。




夏の暑さが、
体にまとわりつく。

蝉の声が五月蠅く、
汗が止まらない。



アイツは
光やない。



積み重なった違和感が、
もう無視できない程
大きくなっていった。

心のどこかで、
もう答えは出とる。



でも、認めて
しまつたらー…

全てが終わる。

なあよしき

この後さア、
山久にアイス
買いに行かん？



いつもの道。

いつもの景色。

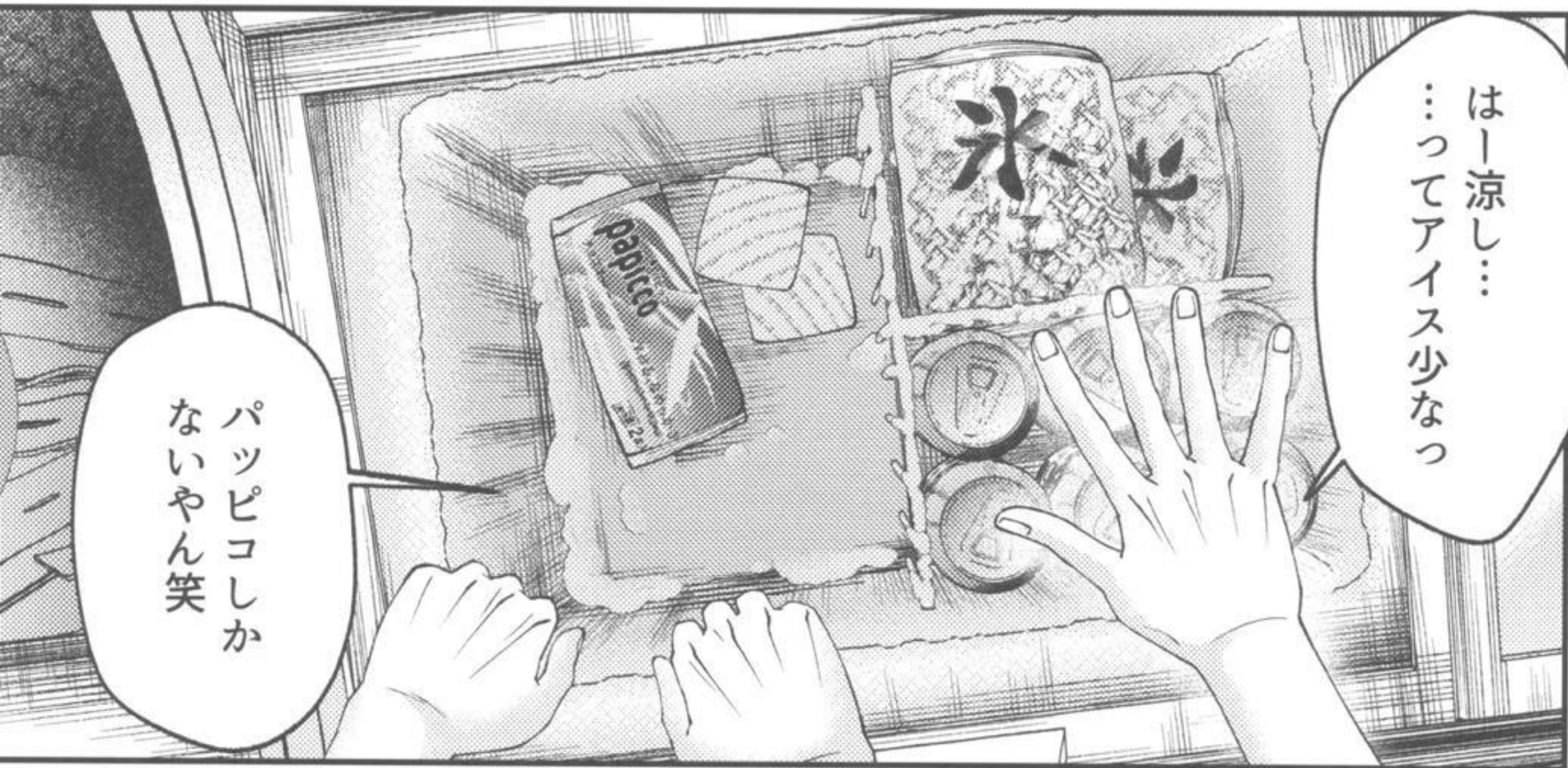
でも、何もかもが
違って見える。



もう限界に
近づいていた。



おばちゃん
アイス買うてええかー



はー涼し…
…ってアイス少なくなっ

パツピコしか
ないやん笑



なあ、光ちゃん、
よしきちゃん、

今から配達に行くから、
悪いんやけど少しの間
店番お願いできやん？

おう？
ええよー
気をつけてなー



冷たくて、
甘い。

でも正直、
味なんて分から
なかった。

夏の日差しの中、
汗をかきながら
無邪気に笑つとる。

見た目も、声も、
仕草も、
確かに光やのに…

けど…

これは、
光やない。

胸の奥で、
何かが叫んでいた。



半年間、
ずっと、ずっと
抱えてきた疑問。

光を失う
恐怖と、

絶望。

聞いたら、
もう…
戻れない…

……なあ。



ん？

聞いたら、
終わる。

でもー

もう、
限界やった。

お前…



お前やっぱ…

言葉が、
喉に詰まる。



でも、
もう止められ
なかった…

お前やっぱ、
光ちやうやる。



え

.....

ハナコ
二階

なんでバレた？なんでバレた？なんでバレた？

なんでバレた？なんでバレた？なんでバレた？

なんでバレた？なんでバレた？なんでバレた？

なんでバレた？なんでバレた？なんでバレた？

なんでバレた？なんでバレた？なんでバレた？

なんでバレた？なんでバレた？なんでバレた？

なんでバレた？なんでバレた？なんでバレた？

なんでバレた？なんでバレた？なんでバレた？

なんでバレた？なんでバレた？なんでバレた？

なんでバレた？なんでバレた？なんでバレた？

なんでバレた？なんでバレた？なんでバレた？

…あ、ハハッ……

よしきどしたん、急にそんなこと言うて。

なんでバレた？

おれの模倣、完璧だったはずやのに……

なんでバレた？

なんで

なんで

…そうよな、
いきなりごめん
変なこと言うて…

…いや、
バレてない…？

時々な、光やけど
光やないような…

そんな感じが
する時があつて。

あかん、何とか
誤魔化さんと…

…ひ、光は、
そんな泣き真似
なんてしやん。

よしき
ひどいわー

おれが
ニセモノやつて
言うん？

えー
やったらさア…

おれが本物の
光かどうか…

確かめてみゃん？

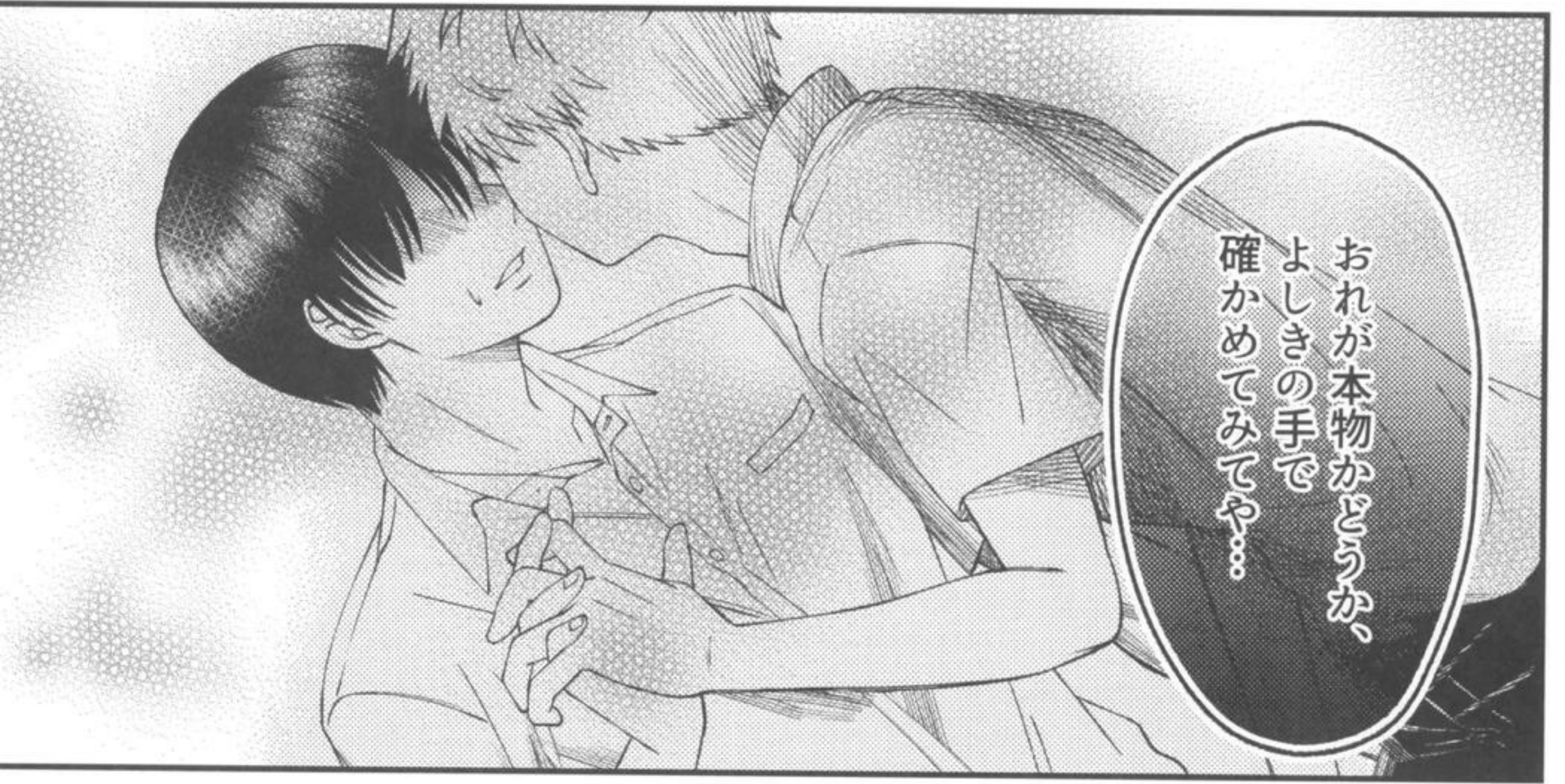
……は、



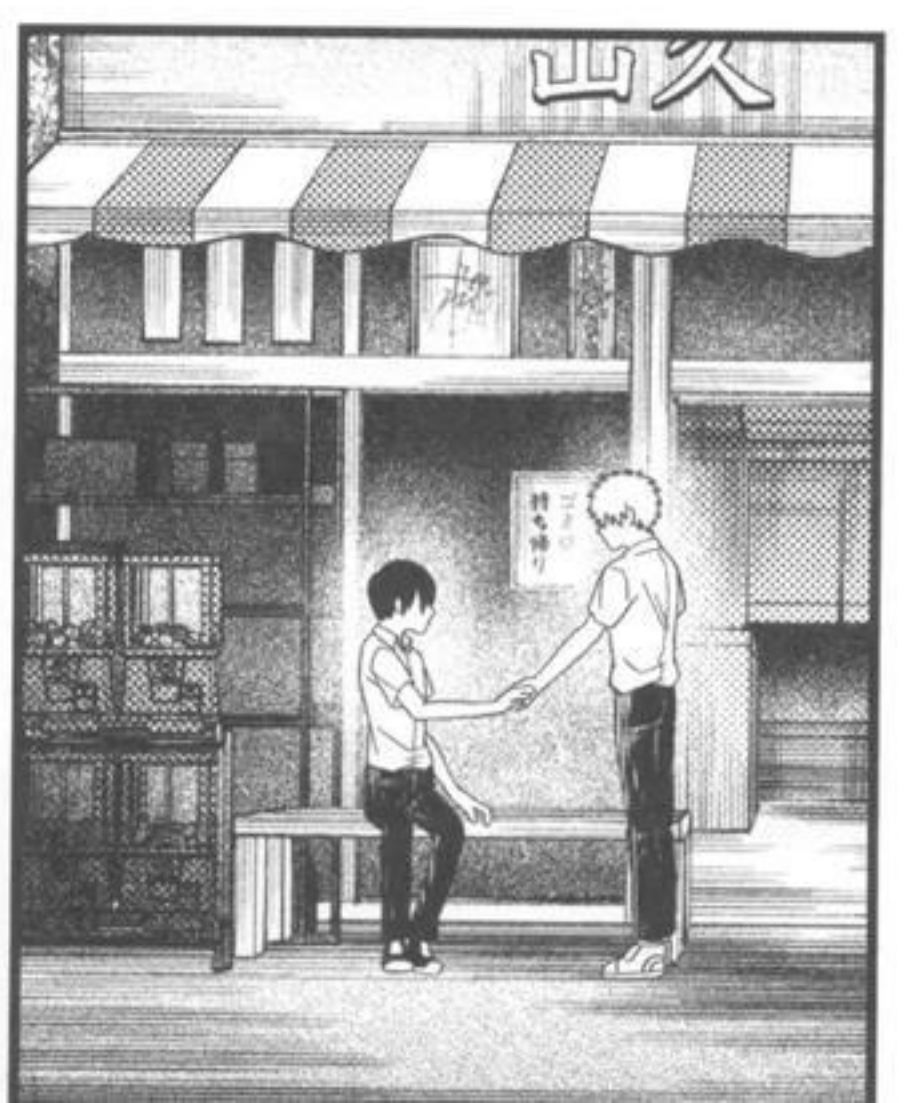
やからさあ…

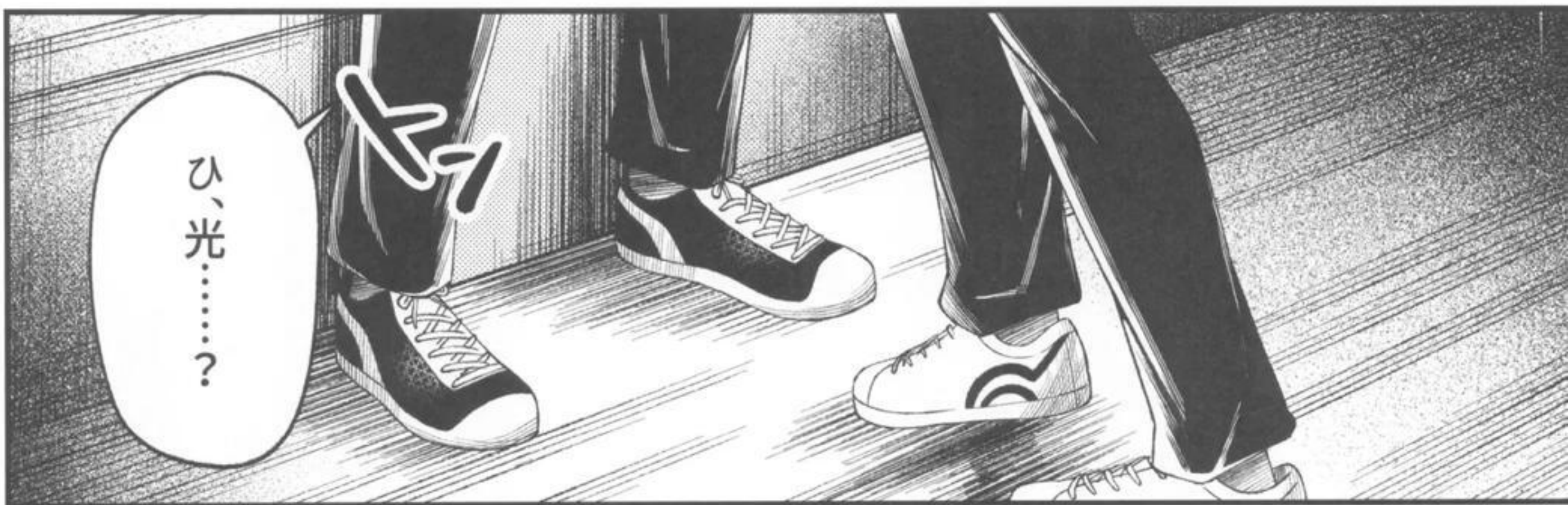
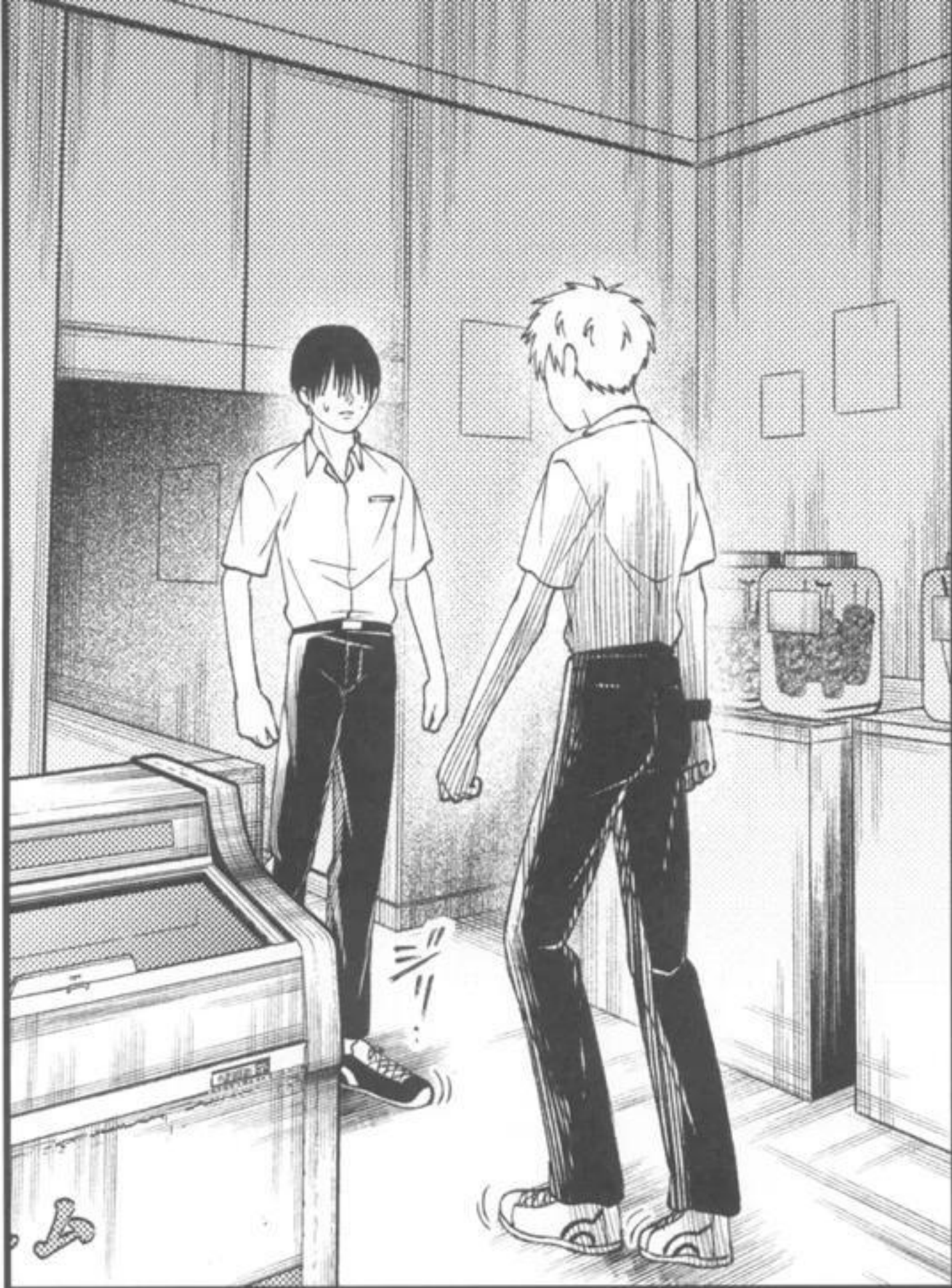


はあ…？
なにを…



おれが本物かどうか、
よしきの手で
確かめてみてや…







おれさ、
よしきのこと
好きや。

やから…



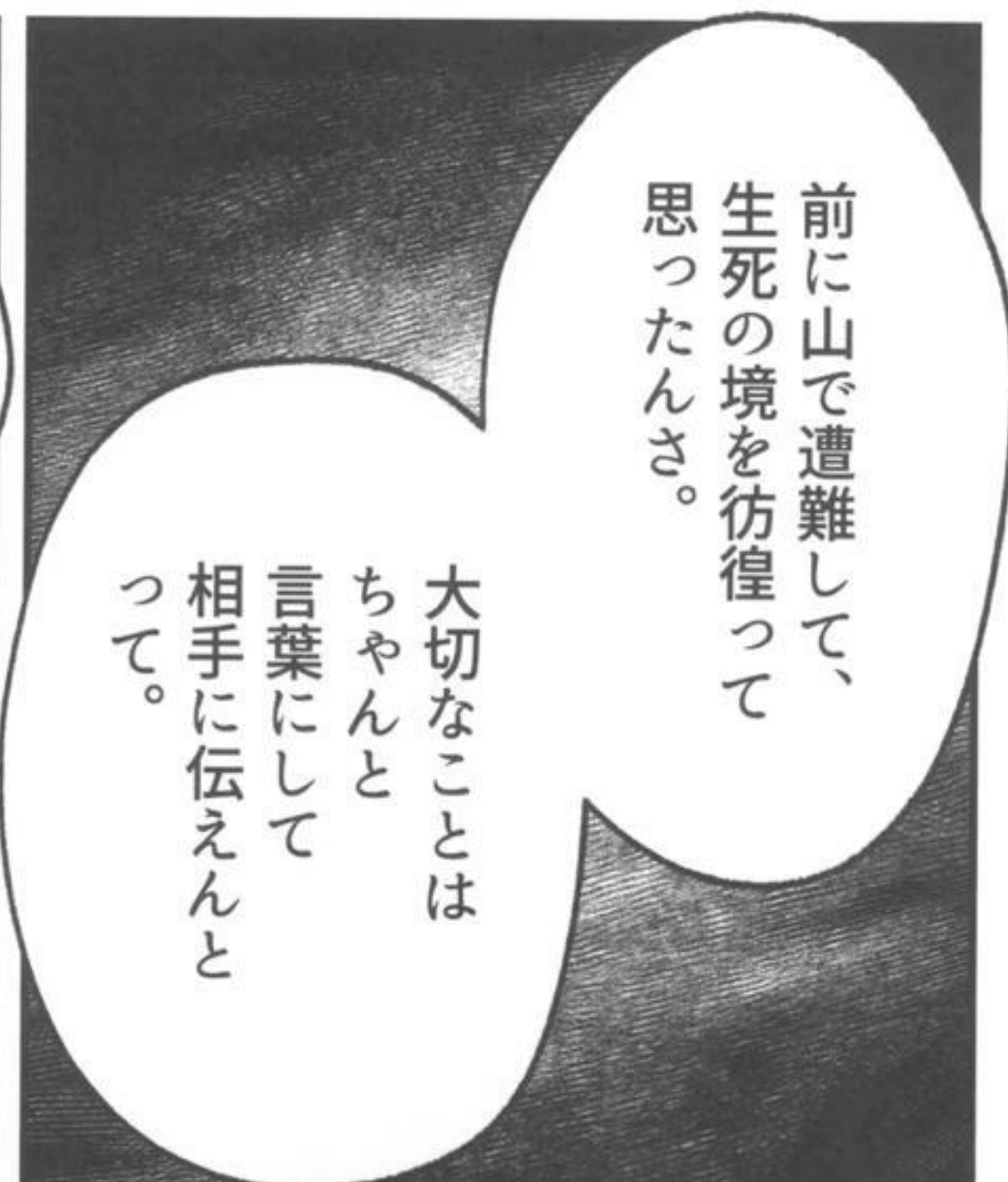
……は、

は……？
何……急に。



：嘘や。
光はそんな…
そんなこと
言うはず…

おれと
離れたくないん？
プスプスーw
キモー！！



前に山で遭難して、
生死の境を彷徨って
思ってたんさ。

大切なことは
ちゃんと
言葉にして
相手に伝えんと
って。





もっと近くで、
おれを見て。

おれを
感じてー…

これでもまだ
おれがニセモノや
言うん？



光の匂い……

……っ

ドキドキ

ドキ

ドキ

光の体温がい匂いが、
心臓の鼓動が、
煩いくらい
伝わってくる…



キラッ



距離が近過ぎる…
反応してまう…

んんん

俺で最低や…
こんなんで
確かめようとして…



あ、あかん……

かああ



あ…こ、これは…
その……



よしき…
これ、どしたん？



そ、そもそも
お前のせい
やんか！

急に抱きついて来て、
感じろとか…
そんなんされたら…



よしき可愛いな。
おれでこんな
なるん？

やめ…光、
ほんまに…

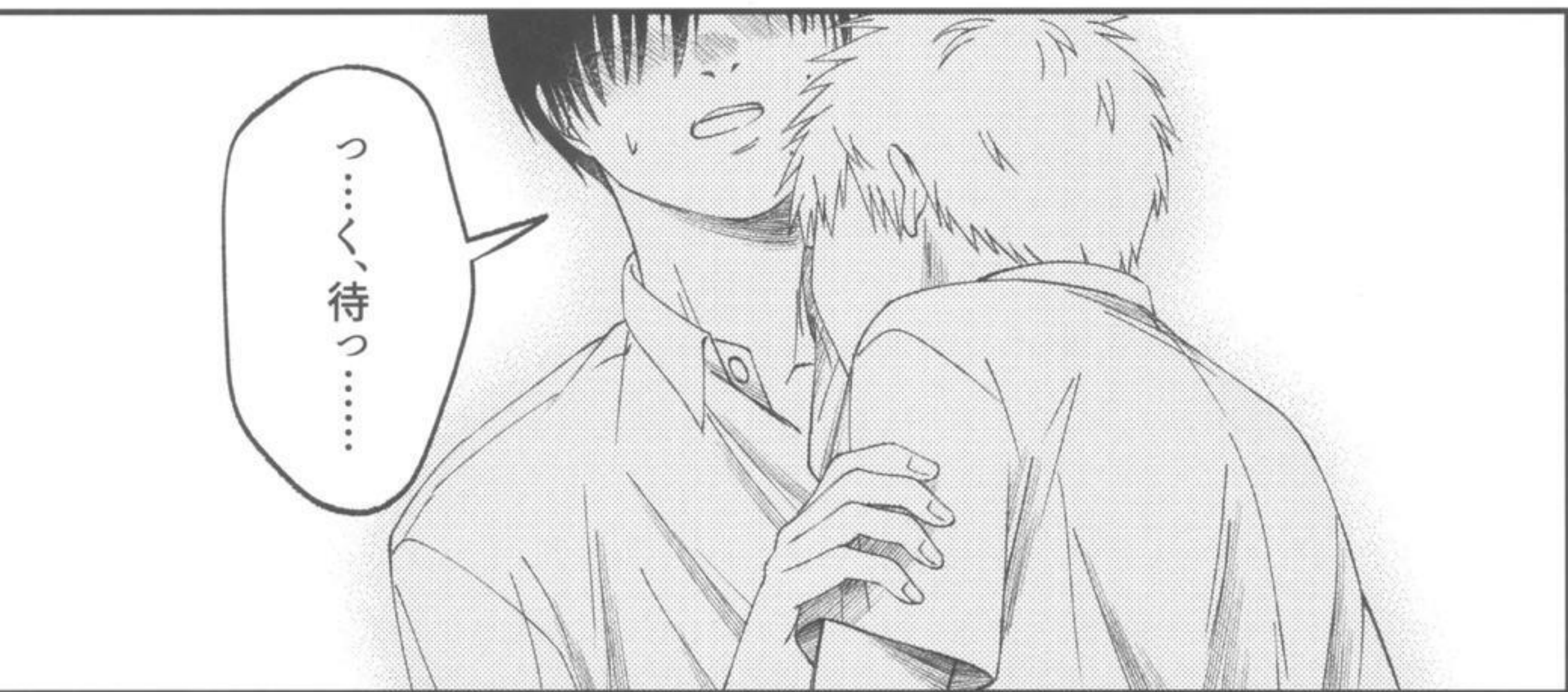
お前やっぱ
光ちゃうやろ…？
こんなん、絶対に……



やから、
感じてみてや。
おれの体温、
心臓の音……

よしきが一番
わかるやろ？

っ……



っ……く、待っ……

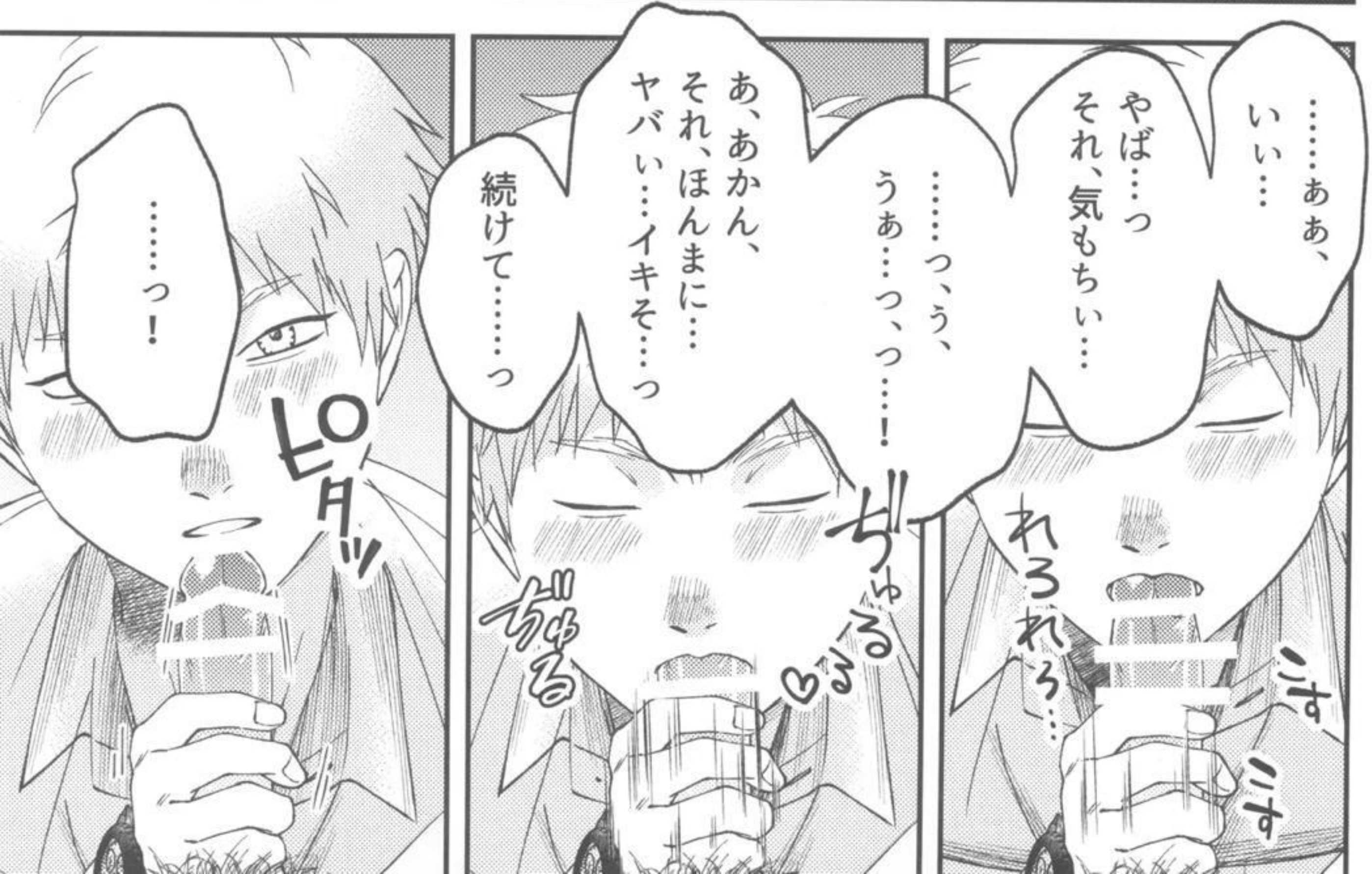


生死の境で、
よしきの事しか
考えられやんかった。

よしきに触れたくて
たまらん。

おれも……
こんなん、初めてや。







えー？
気になるん？

それはだなア…



…なあっ
なんで止めるん…
光お前…
イジワルすぎるぞ…



秘密ウー？

そんなんどこで
覚えてきたん…



うわ…っ！

調子乗りおって…！

…っ、
こいつ！

アッ！



交代や。

もう...我慢できやん。

どうなっても
知らんからな。



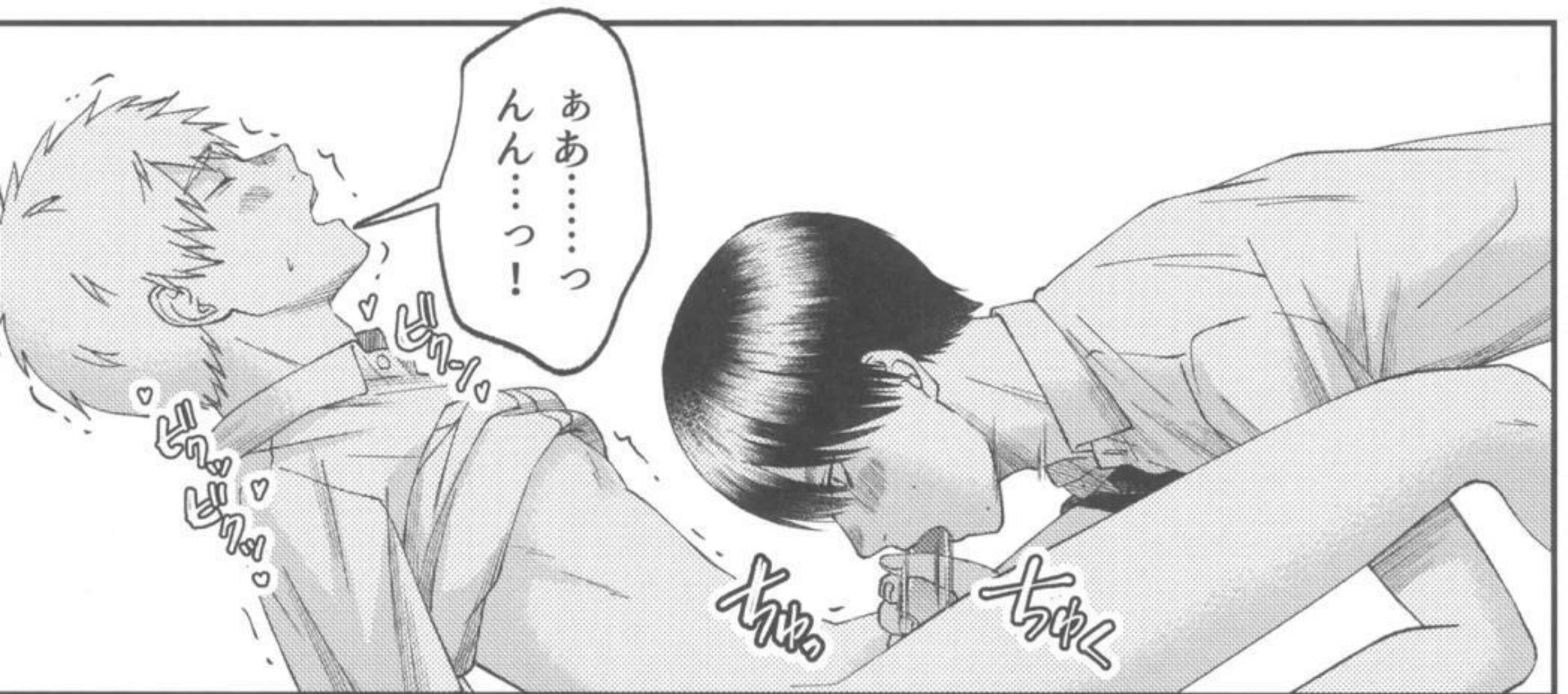
...っ！

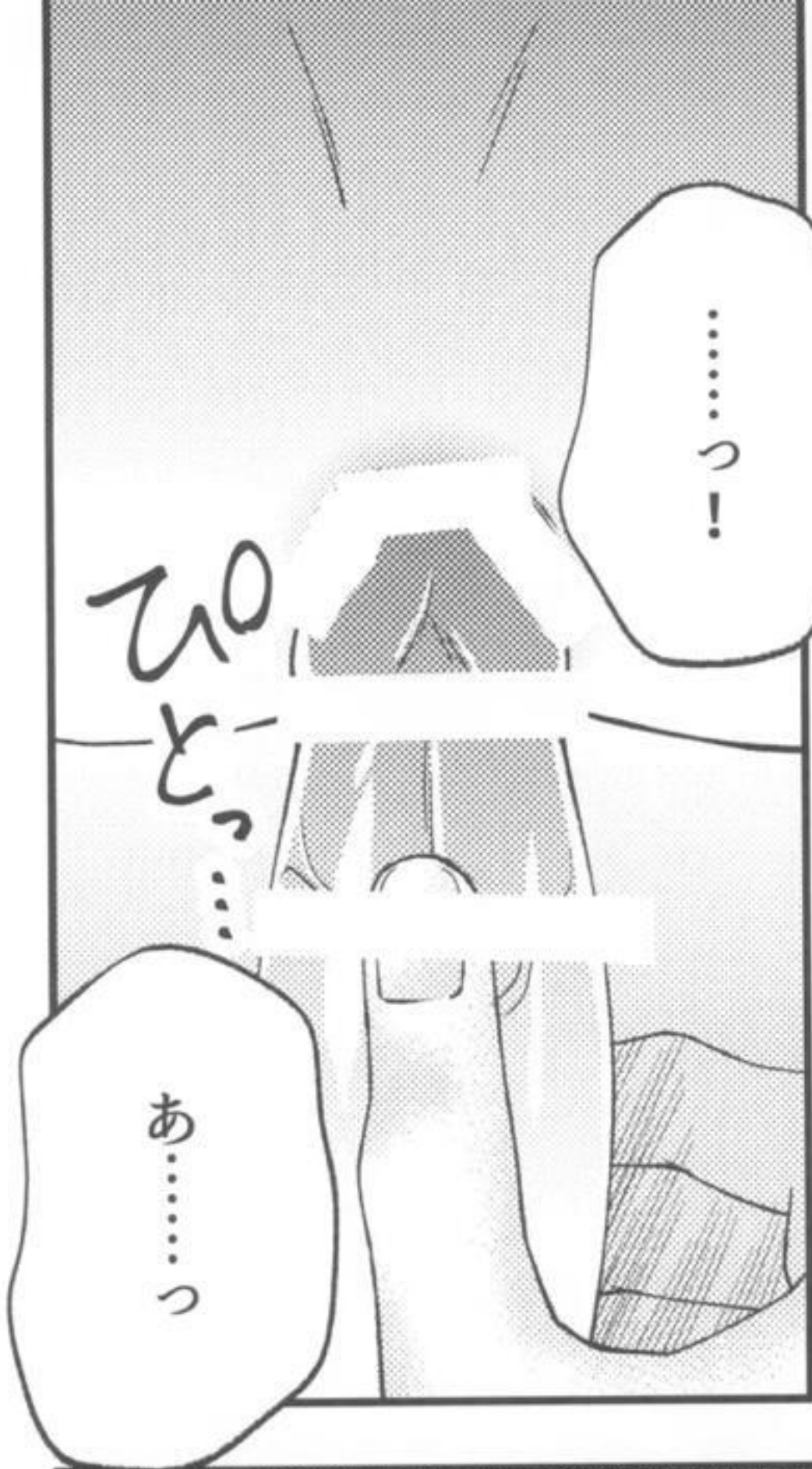
うわ！
よよしき...っ！

あ、

...んっ！

っ





……っ！

ひょ
とっ……

あ……っ



ええよ……
後ろ、向いてや……



おれん中、
よしきで……
いっぱいた……っ

あ……

びん

ハハ

ちゅっ



……うっ、
お前ん中熱……っ



っああ！
あん……っ

あ……

ちゅ







END

あとがき

この度は本書をお手に取っていただき、誠にありがとうございます。
少しでも楽しんでいただけたら幸いです。

漫画制作は今作で二作目となります。
普段、人間キャラクターを描く機会があまりないため、人物の作画に不安もありましたが、前作に続き温かい反応をいただけたことに、とても励まされました。

実は当初、スケジュールの都合から制作を諦めかけた時期もありました。
ですが、SNSでのお声がけや感想を通じて、作品を楽しみにしてくださる方がいることを改めて実感し、その想いに背中を押される形で完成させることができました。
改めて、心より感謝申し上げます。
その想いをモチベーションに完成させたのが、本作「残光」です。
皆様の心に、何か余韻を残せる作品となっていましたら幸いです。

これから春にかけて私生活・仕事ともに忙しくなり、SNSの更新は控えめになるかと思いますが、今後も変わらず仲良くしていただけたら幸いです。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

感想はこちらから！

かおしば




ご感想など、何かあれば是非お聞かせください。
次作を制作するモチベーションに繋がります…！

タイトル：残光ー空白の半年間ー

発行日	：2026年1月25日	X(旧Twitter)	：@kaoshiba_syumi
サークル名	：御杖駐在所	pixiv	：17050514
発行者	：かおしば	email	：kaoshibasyumi@gmail.com
印刷所	：同人誌印刷.com		

- この作品はフィクションです。実在の人物・作品・団体・出来事などには関係ありません。
- この本は個人が非公式に発行したものです。そのため、公式設定に準拠していません。
- 18歳未満の閲覧は禁止です。本書の転載、編集、トレース、転売、使用を禁止します。
- This is a work of fiction. Any resemblance to actual persons, living or dead, works, organizations, events, or locales is entirely coincidental.
- This work is an unofficial publication by a private individual.
It does not represent any official point of view.
- ADULTS ONLY 18+. DO NOT REPOST, EDIT, TRACE, RESELL OR USE MY WORKS.



光が行方不明になり、
そして“光”は戻ってきた。

帰ってきた“光”と過ごした、
嘘と沈黙に満ちた日々。

疑えば壊れてしまいそうで、
信じれば嘘に飲み込まれそうで。
それでもよしきは、光を選び続けた。

違和感を抱えたまま、
正体に触れないという選択をしたよしき。
その選択が、二人の関係を歪ませ、深めていく。

これは、
「お前、光ちゃうやろ」と口にするまでの
空白の時間を描いた物語。

真実に目を向ける前の、
「一緒にいる」ことを選んでしまった二人の記録。